

ふくしの杜ほんじょうプラン 21

(第 2 期本庄市地域福祉計画・第 2 期本庄市地域福祉活動計画)

進捗管理シート (令和 3 年度取組状況)

社会福祉法人本庄市社会福祉協議会

基本戦略 1 市民の生活を支える仕組みづくり

頁	重点的取組	R1評価	R2評価	R3評価	担当係
1	①相談支援機能の強化と相談体制の整備	A	A	A	庶務係
2		B	B	B	地域福祉係
3	②個別相談窓口の再構築	A	A	A	社会福祉係
4	③ボランティアセンターにおける個別ニーズ対応の拡充	A	A	A	地域福祉係
5	①福祉窓口としての周知と利用の促進	A	A	A	社会福祉係
6	②地域の公共施設等と連携した情報提供体制づくり	A	A	B	地域福祉係
7		A	A	B	庶務係
8	③サービス利用につながりにくい人への支援の検討	A	A	A	地域福祉係
9	①生活困窮者等への支援事業の実施	A	B	A	社会福祉係
10	②相談支援機能の強化と相談体制の整備（再掲）	A	A	A	庶務係
11		B	B	B	地域福祉係
12	③有償家事援助サービス事業の拡充	A	A	A	地域福祉係
13	①福祉サービス利用援助事業の推進	A	A	A	社会福祉係
14	②法人成年後見事業の実施	A	B	B	社会福祉係
15	③権利擁護人材の発掘・育成	A	B	B	社会福祉係
16	④成年後見制度の普及啓発	A	A	A	社会福祉係
17	⑤制度の狭間の人への支援	A	A	A	社会福祉係
18	①相談支援機能の強化と相談体制の整備（再掲）	A	A	A	庶務係
19		B	B	B	地域福祉係
20	②更生保護団体との連携	A	B	B	社会福祉係
21	③更生保護運動への協力	A	B	B	社会福祉係
22	①災害ボランティアセンターの設置・運営体制の整備	A	A	A	地域福祉係
23		C	A	A	地域福祉係
24	②災害ボランティアの養成	B	B	B	地域福祉係
25	③被災者支援のための相談支援体制の整備	B	A	A	地域福祉係
26	①障害への理解を深めるための市民向け研修会等の開催	A	B	B	地域福祉係
27		A	A	B	庶務係
28	②学校等と連携した福祉教育の充実	C	B	B	地域福祉係
29	③地域共生社会の実現に向けた意識の醸成	A	B	A	地域福祉係
30	①有償家事援助サービス事業の拡充（再掲）	A	A	A	地域福祉係
31	②移動支援を行う団体への育成・支援の検討	A	B	A	地域福祉係
32	①住居に関する相談への対応	A	A	A	社会福祉係
33	②空き家の福祉的利用の促進	A	B	A	地域福祉係

基本戦略2 人と人とのつながりづくり

頁	重点的取組	R1評価	R2評価	R3評価	担当係
34	①相談支援機能の強化と相談体制の整備（再掲）	A	A	A	庶務係
35		B	B	B	地域福祉係
36	②小地域における住民の福祉活動の組織と活動拠点の整備	A	B	B	地域福祉係
37	③当事者組織の支援	A	A	A	地域福祉係
38	④福祉関係講座受講者等の実践活動支援の検討	C	B	A	社会福祉係
39	⑤サロン活動の推進	A	B	B	地域福祉係
40	①多職種連携の推進	A	A	A	社会福祉係
41	②社会福祉法人相互の連携体制づくり	A	B	A	社会福祉係
42	③職能団体等の組織化支援の検討	C	C	C	地域福祉係

基本戦略3 地域で共に生きるための人づくり

頁	重点的取組	R1評価	R2評価	R3評価	担当係
43	①学校等と連携した福祉教育の充実（再掲）	C	B	B	地域福祉係
44	②学生の福祉意識の醸成に向けた取り組み	A	B	A	地域福祉係
45	③福祉教育ボランティアの育成	A	B	A	地域福祉係
46	①多様なニーズに対応したボランティアの育成	A	B	A	地域福祉係
47	②ボランティアコーディネート機能の充実	B	B	B	地域福祉係
48	③地域における福祉人材の発掘・育成	A	A	A	地域福祉係
49	①民生委員・児童委員等支援関係者の支援	A	A	A	地域福祉係
50	②多職種連携の推進（再掲）	A	A	A	社会福祉係

基本戦略4 計画推進体制の発展・強化

頁	重点的取組	R1評価	R2評価	R3評価	担当係
51	①業務・財務分析や事務局の体制強化	A	A	A	庶務係
52	②相談支援機能の強化と相談体制の整備（再掲）	A	A	A	庶務係
53		B	B	B	地域福祉係
54	③社会福祉協議会の認知度の向上	A	A	B	庶務係
55	④社協会員の増強	A	B	B	社会福祉係
56	①会費、寄附金の確保	A	A	B	社会福祉係
57	②事業の透明化	A	A	A	庶務係
58	③寄附意識の醸成	A	A	A	庶務係
59	④基金の適正活用	A	A	A	庶務係
60	⑤共同募金運動の推進	A	A	A	社会福祉係

ふくしの杜ほんじょうプラン2 1 進捗管理シート

担当係

庶務係

基本戦略	市民の生活を支える仕組みづくり				
施策細目	相談支援の仕組みづくり				
重点施策	① 包括的な相談支援体制の構築				
重点事項・ 重点的取組	事業				
	相談支援機能の強化と相談体制の整備(1)				
	概要				
	市民の日常生活上の課題への相談対応にあたり、相談支援機能を強化します。具体的には、定期的に担当職員によるケース検討や職員研修を開催し、職員個々の相談対応力の向上に努めます。				
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年次計画 (予定)	生活相談支援機能の強化(定例検討会・職員研修の実施)				
指標目標 ※年度初めに設定	組織内研修の実施	組織内研修の実施・OJTの導入	組織内研修の実施・階層別研修の実施	組織内研修の実施・階層別研修の実施	

<令和3年度実施結果>

具体的な取組内容		成果
新型コロナウイルス感染症の影響により、オンラインで実施する研修が増えたことにより受講環境を強化しました。また、2年度に引き続き、職員の資質の向上や組織力の向上を目指し、ナラティブアプローチ研修、個人情報保護研修、コンプライアンス研修等を実施し、組織内研修の充実を図りました。		個人情報保護研修やコンプライアンス研修を毎年実施するなど、事故が起きないように取り組んでいます。ナラティブアプローチ研修では、多様化する対人援助や相談援助事例に対応するために全職員で受講し、相談援助技術の向上を図りました。
自己評価	今後の方針	
A	さまざまな福祉ニーズに対応できる人材の育成と専門性の向上のため、必要な研修体系を整理して職員研修の充実を図り、市民の信頼と期待に応えられる職員となることを目指します。また、複雑かつ多様な生活・福祉課題にも的確に対応できるよう、知識や能力、技術などを身に付け、職員の育成に努めます。	

A達成 B未達成 C検討中 D中止

<<備考>>

ふくしの杜ほんじょうプラン21 進捗管理シート

担当係

地域福祉係

基本戦略	市民の生活を支える仕組みづくり				
施策細目	相談支援の仕組みづくり				
重点施策	① 包括的な相談支援体制の構築				
重点事項・ 重点的取組	事業				
	相談支援機能の強化と相談体制の整備(2)				
	概要				
	日常生活圏域(中学校区域)ごとにCSWを配置して、市民の生活課題をアウトリーチするための相談体制を整えます。また、CSWは個別支援とともに地域支援を行い、主に小学校圏域ごとに展開を想定している小地域福祉活動をサポートし、地域資源開発や住民相互の相談機能の構築に取り組みます。				
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年次計画 (予定)	調査研究・CSWの暫定的な配置			CSWの配置	
指標目標 ※年度初めに設定	担当業務を通じて、コミュニティ・ソーシャル・ワークを実践する	担当業務を通じて、コミュニティ・ソーシャル・ワークを実践する	担当業務を通じて、コミュニティ・ソーシャル・ワークを実践する	CSW配置の検討	

<令和3年度実施結果>

具体的な取組内容			成果
CSWの配置には至っておりませんが、民生委員・児童委員の見守り活動支援やサロン活動支援、その他の地域活動支援等を通じて、コミュニティ・ソーシャル・ワークの実践に取り組みました。また、圏域ごとにサロン担当者を配置して、運営等に関する相談に対応しました。コロナ禍により、県社協等が主催する研修会の開催(参加)はありませんでした。			生活支援コーディネーター等が立ち上げ支援を行い、市内2か所目の地域版住民参加型在宅福祉サービスが始まりました。コロナ禍におけるサロン活動再開に向けて、運営者研修会や相談支援を行いました。
自己評価	今後の方針		
B	新型コロナウイルス感染症の影響により、地域活動等は停滞気味となっていますが、ウィズコロナを意識しながら、無理なく活動を継続・再開していけるように地域活動等の支援を行います。引き続きコミュニティ・ソーシャル・ワークにより個別支援と地域支援活動に取り組みながら、コミュニティ・ソーシャル・ワーカー配置を目指して各職員がスキル向上に努めます。		

A達成 B未達成 C検討中 D中止

《備考》

ふくしの杜ほんじょうプラン21 進捗管理シート

担当係

社会福祉係

基本戦略	市民の生活を支える仕組みづくり				
施策細目	相談支援の仕組みづくり				
重点施策	① 包括的な相談支援体制の構築				
重点事項・ 重点的取組	事業				
	個別相談窓口の再構築				
	概要 「心配ごと相談」「結婚相談」等、社協が開設する個別相談窓口について、市民の利用しやすさ等を考慮して、相談員や関係機関と協議しながら、見直し・再構築に取り組みます。				
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年次計画 (予定)	調査研究(相談窓口の検証・関係者との協議)			相談窓口の見直し	
指標目標 ※年度初めに設定	相談体制の検討	相談体制の検討	相談体制の検討	相談窓口の見直し	

<令和3年度実施結果>

具体的な取組内容		成果
心配ごと相談、結婚相談、自立相談支援窓口については、従前の相談体制を継続しました。成年後見相談については、令和3年7月に市からの委託により、本庄市成年後見サポートセンターを開設し、その中で一般相談及び専門相談を開設しました。専門相談は毎月2回、相談員アドバイザー1名、相談員1名の2人1組で相談を受けました。専門相談の体制について、相談員等と意見交換を行い、来年度以降の体制について検討を行いました。		心配ごと相談は年間68件(本庄会場56件、児玉会場12件) 結婚相談は男性51名、女性25名 成年後見相談は一般21件、専門17件 成年後見相談体制の見直しを検討し、新たに2名相談員を委嘱 自立相談支援窓口は年間675件
自己評価	今後の方針	
A	各相談事業の実績を考慮し、関係機関と協議しながら、今後も受付方法や相談員等の体制を見直していきます。また、今後も引き続き市民に利用しやすい相談体制の検討に努め、包括的な相談支援体制の構築を目指します。令和4年度より成年後見相談の相談体制を見直します。	

A達成 B未達成 C検討中 D中止

《備考》

ふくしの杜ほんじょうプラン2 1 進捗管理シート

担当係

地域福祉係

基本戦略	市民の生活を支える仕組みづくり				
施策細目	相談支援の仕組みづくり				
重点施策	① 包括的な相談支援体制の構築				
重点事項・ 重点的取組	事業				
	ボランティアセンターにおける個別ニーズ対応の拡充				
	概要				
	社協に併設されるボランティアセンターにおいて、個別ニーズに対してマッチング機能を充実します。ちょっとした困りごとから日常生活上のサポートまで、幅広いボランティアによる支え合いを促進します。				
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年次計画 (予定)	調査研究	個別ニーズ対応の拡充			
指標目標 ※年度初めに設定	個別ニーズの把握	ホームページを活用した情報発信	ホームページやSNSを活用した情報発信	ホームページやSNSを活用した情報発信	

＜令和3年度実施結果＞

具体的な取組内容		成果
地域ケア個別会議等に参加して、個別ニーズの状況把握に努め、電球交換など日常生活上の困りごとに対し、生活支援コーディネーターと連携しながらマッチングに取り組みました。また、スマートフォンによる申込みや情報発信が増えていることから、情報紙にて操作補助のボランティアを募集しました。		ボランティアは2名登録。また調査で、コロナ禍でもできる在宅ボランティアの活動ニーズが高まっていることが分かりました。活動をどうマッチングしていくかが新たな課題となっています。【個別ニーズマッチング率】71.4%【施設・団体ニーズマッチング率】75%
自己評価	今後の方針	
A	SNS・ホームページやその他の媒体を活用し、個別ニーズに対応できるシステムの構築を検討します。また、専門職・関係機関等にボランティアセンターの機能周知を行い、個別ニーズに対応したボランティア発掘への協力をお願いし、拡充につなげます。	

A 達成 B 未達成 C 検討中 D 中止

＜備考＞

ふくしの杜ほんじょうプラン21 進捗管理シート

担当係

社会福祉係

基本戦略	市民の生活を支える仕組みづくり				
施策細目	相談支援の仕組みづくり				
重点施策	② 福祉窓口の多チャンネル化				
重点事項・ 重点的取組	事業				
	福祉窓口としての周知と利用の促進				
	概 要				
	社協は、地域の福祉相談チャンネルの一つとして市民に利用を呼びかけるとともに、利用しやすい窓口の運営に努めます。住民の悩みや不安を受け止めて、適切な窓口やサービスにつなげたり、問題点等を整理しながら一緒に解決方法を探ります。また、民生委員・児童委員や地域の福祉実践者の相談窓口としての機能を果たしながら、地域課題の解決に取り組めます。				
年度	令和元年度	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度
年次計画 (予定)	福祉窓口としての利用の促進				
指標目標 ※年度初めに設定	市広報(年12回)、社協だより(年4回)やホームページの活用	市広報(年12回)、社協だより(年4回)やホームページの活用	市広報(年12回)、社協だより(年4回)やホームページの活用	市広報(年12回)、社協だより(年4回)やホームページの活用	

<令和3年度実施結果>

具体的な取組内容	成果
心配ごと相談、結婚相談、成年後見相談、自立相談支援窓口業務等を通して、地域における福祉相談窓口を開業し、市広報、社協だより、ホームページで利用促進を行いました。 成年後見相談については、令和3年7月に市からの委託により、本庄市成年後見サポートセンターを開業し、その中で一般相談及び専門相談を開業しました。また、センターのリーフレット等を作成・配布し、その中で相談窓口について市民に周知しました。	市広報：年12回、社協だより：年4回、ホームページで周知し、次の相談実績となりました。 心配ごと相談：68件、結婚相談：男性51名、女性25名、成年後見相談：一般21件、専門17件、自立相談支援窓口：675件

自己評価	今後の方針
A	引き続き、成年後見相談、自立相談支援窓口業務等、潜在的に利用が必要と思われる方に対して、市広報、社協だより、ホームページにより利用促進を行っていきます。

A達成 B未達成 C検討中 D中止

<<備考>>

ふくしの杜ほんじょうプラン2 1 進捗管理シート

担当係

地域福祉係

基本戦略	市民の生活を支える仕組みづくり				
施策細目	相談支援の仕組みづくり				
重点施策	② 福祉窓口の多チャンネル化				
重点事項・ 重点的取組	事業				
	地域の公共施設等と連携した情報提供体制づくり(1)				
	概要 地域における情報提供の拠点として、公民館や福祉施設、病院等に「ふくしPRコーナー」の設置を呼びかけます。また、各自治会の掲示板等に様々な福祉情報の掲示について協力を呼びかけて、地域一丸となったPR体制の構築を目指します。				
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年次計画 (予定)	「ふくしPRコーナー」の設置の呼びかけ				
指標目標 ※年度初めに設定	ふくしPRコーナーの設置 (15か所)	ふくしPRコーナーの設置 (20か所)	ふくしPRコーナーの設置 (25か所)	ふくしPRコーナーの設置 (28か所)	

<令和3年度実施結果>

具体的な取組内容		成果
市民に福祉情報を提供するためのツールとして、市内医療機関や施設、商店等24か所でカタログスタンドやコルクボードを設置していただき、「ふくしPRコーナー」として福祉情報の提供に努めました。		設置か所数は、前年3か所増の24か所となりました(9医療機関・7施設・8店舗)。
自己評価	今後の方針	
B	引き続き、人が集まる場所に「ふくしPRコーナー」の設置を働きかけ、より多くの市民のみなさまに福祉情報が届くように、計画的な増設と情報発信に努めます。	

A達成 B未達成 C検討中 D中止

《備考》

ふくしの杜ほんじょうプラン2 1 進捗管理シート

担当係

庶務係

基本戦略	市民の生活を支える仕組みづくり				
施策細目	相談支援の仕組みづくり				
重点施策	② 福祉窓口の多チャンネル化				
重点事項・ 重点的取組	事業				
	地域の公共施設等と連携した情報提供体制づくり(2)				
	概要 既存の広報媒体(社協だより・ホームページ等)とともに、ケーブルテレビほか各種メディア等、様々な情報提供ソールの活用について検討します。				
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年次計画 (予定)	各種情報提供ソールの有効活用(社協だより・ホームページ・ケーブルテレビ等)				
指標目標 ※年度初めに設定	ホームページやSNSへの閲覧数の増加(ホームページ閲覧数年間40,000件)	ホームページやSNSへの閲覧数の増加(ホームページ閲覧数年間50,000件)	ホームページやSNSへの閲覧数の増加(ホームページ閲覧数年間60,000件)	ホームページやSNSへの閲覧数の増加(ホームページ閲覧数年間60,000件)	

<令和3年度実施結果>

具体的な取組内容		成果
文字やレイアウトに配慮して、誰もが見やすい、わかりやすい広報誌の作成に努め、「読みたくなる魅力的な広報紙」を目指しました。ホームページやSNSでは、タイムリーな情報を掲載することを心がけ、情報発信の充実を図りました。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、生活にお困りの方に対して多くの情報を迅速に発信できるよう努めるとともに、ホームページでは、多言語化を実施して外国の方のアクセシビリティ向上を実現しました。		昨年度に比べて、ホームページの閲覧数は減少となりましたが、ホームページの多言語化を実施し、外国の方でもタイムリーな情報を取得できるよう努めました。(ホームページ閲覧数年間59,052件、前年比0.83倍)
自己評価	今後の方針	
B	市民に必要な情報が必要な時に提供できるよう、わかりやすい情報発信を心掛け、情報提供体制と内容の充実に努めます。LINEの導入を進め、様々な情報発信の形態に積極的に取り組みます。さらに、災害などの緊急時に備えるために、情報提供の仕組みづくりに取り組み、発信の充実・強化を図ります。	

A達成 B未達成 C検討中 D中止

《備考》

ふくしの杜ほんじょうプラン21 進捗管理シート

担当係

地域福祉係

基本戦略	市民の生活を支える仕組みづくり				
施策細目	相談支援の仕組みづくり				
重点施策	② 福祉窓口の多チャンネル化				
重点事項・ 重点的取組	事業				
	サービス利用につながりにくい人への支援の検討				
	概要				
	サービスの利用を拒む人やサロンがあっても参加しない人が、地域で孤立しているケースも見られます。そうした人ができるだけ地域で孤立しないよう、地域福祉団体やサロン等と連携しながら、サービス利用につながりにくい人への支援を検討します。また、サロン等の場で地域住民の声を聞くため、アウトリーチに努めます。				
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年次計画 (予定)	サービス利用支援の検討・サロンへのアウトリーチ				
指標目標 ※年度初めに設定	社協だより等で サロン情報の周知を図る	サロン活動周知の継続・新たな サロン活動の展開の検討	サロン活動周知の継続・新たな サロン活動の展開の検討	サロン活動周知の継続・既存サ ロン活動の展開を検討	

<令和3年度実施結果>

具体的な取組内容		成果
社協だよりによりサロン情報を掲載し、市民に広く周知するとともに、市や地域包括支援センター、民生委員・児童委員協議会等と連携しながら情報発信を行い、サロン参加への潜在的なニーズの発掘に努めました。また、地域ケア会議にて、孤立しがちな方への情報提供を行いました。		新規サロンが2件立ち上がりしました。コロナ禍により、サロンが休止状態となり、認知機能低下が心配されたため、研修会で認知症サポーター養成講座を開催しました。
自己評価	今後の方針	
A	サロン周知のため、市内のサロン一覧情報を全戸配布します。また、引き続き社協だよりやケーブルテレビ、各種媒体等を活用しながら、サロンの周知に努めます。中学校圏域ごとにサロン担当職員を配し、直接参加者の声を聞いて福祉ニーズ等を聞き取りながら、各サロンの特色を生かした様々な取組を支援します。また、自治会や民生委員・児童委員協議会等と連携しながら、サロン参加につながっていない地域住民への働きかけについて検討していきます。	

A 達成 B 未達成 C 検討中 D 中止

《備考》

ふくしの杜ほんじょうプラン21 進捗管理シート

担当係

社会福祉係

基本戦略	市民の生活を支える仕組みづくり				
施策細目	横断的なサービスづくり				
重点施策	① 生きづらさを抱えている人への支援				
重点事項・ 重点的取組	事業				
	生活困窮者等への支援事業の実施				
	概要				
	埼玉県内の社会福祉法人で構成する「埼玉県社会福祉法人社会貢献活動推進協議会」へ参画して生活困窮者支援に取り組み、制度の狭間にいる人などを対象に、「彩の国あんしんセーフティネット事業」を実施します。また、家庭や企業に食糧等の生活支援物資の提供を呼びかけ、提供食料等を生活困窮者への支援につなぐフードバンクの実施などのほか、制度の狭間にいる人への支援について、地域住民・支援関係者・福祉専門職・関係機関・団体等とともに検討します。				
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年次計画 (予定)	彩の国あんしんセーフティネット事業・フードバンクの実施・制度の狭間の支援の検討				
指標目標 ※年度初めに設定	彩の国あんしんセーフティネット事業相談件数 15件	彩の国あんしんセーフティネット事業相談件数 18件	彩の国あんしんセーフティネット事業相談件数 18件	彩の国あんしんセーフティネット事業相談件数 20件	

<令和3年度実施結果>

具体的な取組内容		成果
他制度等で支援が難しい方や制度等へつなげる間の一時的かつ緊急的な場合に、彩の国あんしんセーフティネット事業を市内社会福祉法人と連携して実施し、現物給付等の支援を行いました。また、新型コロナウイルス感染症の影響で収入が減少した世帯に対して、フードパントリー事業やお米券配布事業を行いました。フードバンク事業については、チラシ等で企業や市民へ生活支援物資の寄附について周知を図り、寄附いただいた生活支援物資を生活困窮者へ提供しました。		彩の国あんしんセーフティネット事業相談 19件 フードバンク支援321件 フードパントリー事業115世帯(337人) おこめ券配布事業 12月及び3月: 合計 577世帯(3,571枚)
自己評価	今後の方針	
A	生活困窮者自立相談支援事業や社会福祉法人とのより一層の連携を図り、制度の狭間で困窮している方への支援の強化を図ります。また、新型コロナウイルス感染症の影響により収入が減少した世帯が増えており、フードバンクでの支援も増加傾向であるため、緊急時等に速やかに必要なフードバンク支援が行えるよう、引き続き市民の皆様や企業・団体等への働きかけや寄附の周知を行っていきます。	

A達成 B未達成 C検討中 D中止

《備考》

ふくしの杜ほんじょうプラン2 1 進捗管理シート

担当係

庶務係

基本戦略	市民の生活を支える仕組みづくり				
施策細目	横断的なサービスづくり				
重点施策	① 生きづらさを抱えている人への支援				
重点事項・ 重点的取組	事業				
	相談支援機能の強化と相談体制の整備(1)【再掲】				
	概要 市民の日常生活上の課題への相談対応にあたり、相談支援機能を強化します。具体的には、定期的に担当職員によるケース検討や職員研修を開催し、職員個々の相談対応力の向上に努めます。				
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年次計画 (予定)	生活相談支援機能の強化(定例検討会・職員研修の実施)				
指標目標 ※年度初めに設定	組織内研修の実施	組織内研修の実施・OJTの導入	組織内研修の実施・階層別研修の実施	組織内研修の実施・階層別研修の実施	

<令和3年度実施結果>

具体的な取組内容		成果
新型コロナウイルス感染症の影響により、オンラインで実施する研修が増えたことにより受講環境を強化しました。また、2年度に引き続き、職員の資質の向上や組織力の向上を目指し、ナラティブアプローチ研修、個人情報保護研修、コンプライアンス研修等を実施し、組織内研修の充実を図りました。		個人情報保護研修やコンプライアンス研修を毎年実施するなど、事故が起きないように取り組んでいます。ナラティブアプローチ研修では、多様化する対人援助や相談援助事例に対応するために全職員で受講し、相談援助技術の向上を図りました。
自己評価	今後の方針	
A	さまざまな福祉ニーズに対応できる人材の育成と専門性の向上のため、必要な研修体系を整理して職員研修の充実を図り、市民の信頼と期待に応えられる職員となることを目指します。また、複雑かつ多様な生活・福祉課題にも的確に対応できるよう、知識や能力、技術などを身に付け、職員の育成に努めます。	

A達成 B未達成 C検討中 D中止

《備考》

ふくしの杜ほんじょうプラン2 1 進捗管理シート

担当係

地域福祉係

基本戦略	市民の生活を支える仕組みづくり				
施策細目	横断的なサービスづくり				
重点施策	① 生きづらさを抱えている人への支援				
重点事項・ 重点的取組	事業				
	相談支援機能の強化と相談体制の整備(2)【再掲】				
	概要 日常生活圏域(中学校区域)ごとにCSWを配置して、市民の生活課題をアウトリーチするための相談体制を整えます。また、CSWは個別支援とともに地域支援を行い、主に小学校圏域ごとに展開を想定している小地域福祉活動をサポートし、地域資源開発や住民相互の相談機能の構築に取り組みます。				
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年次計画 (予定)	調査研究・暫定的なCSWの配置			CSWの配置	
指標目標 ※年度初めに設定	担当業務を通じて、コミュニティ・ソーシャル・ワークを実践する	担当業務を通じて、コミュニティ・ソーシャル・ワークを実践する	担当業務を通じて、コミュニティ・ソーシャル・ワークを実践する	CSW配置の検討	

<令和3年度実施結果>

具体的な取組内容		成 果
CSWの配置には至っておりませんが、民生委員・児童委員の見守り活動支援やサロン活動支援、その他の地域活動支援等を通じて、コミュニティ・ソーシャル・ワークの実践に取り組みました。また、圏域ごとにサロン担当者を配置して、運営等に関する相談に対応しました。コロナ禍により、県社協等が主催する研修会の開催（参加）はありませんでした。		生活支援コーディネーター等が立ち上げ支援を行い、市内2 か所目の地域版住民参加型在宅福祉サービスが始まりました。コロナ禍におけるサロン活動再開に向けて、運営者研修会や相談支援を行いました。
自己評価	今後の方針	
B	新型コロナウイルス感染症の影響により、地域活動等は停滞気味となっていますが、ウィズコロナを意識しながら、無理なく活動を継続・再開していけるように地域活動等の支援を行います。引き続きコミュニティ・ソーシャル・ワークにより個別支援と地域支援活動に取り組みながら、コミュニティ・ソーシャル・ワーカー配置を目指して各職員がスキル向上に努めます。	

A達成 B未達成 C検討中 D中止

《備考》

ふくしの杜ほんじょうプラン21 進捗管理シート

担当係

地域福祉係

基本戦略	市民の生活を支える仕組みづくり				
施策細目	横断的なサービスづくり				
重点施策	① 生きづらさを抱えている人への支援				
重点事項・ 重点的取組	事業				
	有償家事援助サービス事業の拡充				
	概要 高齢者や障害者など、日常生活の援助を必要とする家庭に対して、市民の協力を得て低廉な料金で家事を援助する「有償家事援助サービス」について、買い物支援や通院支援等といった利用ニーズや現状の生活課題に沿ったサービス内容等の見直しを行います。また、実費弁償費についても見直しを図り、サービス協力者の育成に努めます。				
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年次計画 (予定)	有償家事援助サービス事業のサービス内容等の見直し				
指標目標 ※年度初めに設定	市内専門職・県内他社協を対象にアンケート調査実施	新事業移行に向けた準備	事業リニューアル後の周知及び継続的な見直し	会員募集のための周知及び継続的なPR	

<令和3年度実施結果>

具体的な取組内容		成果
サービス内容や料金等を見直し、令和3年度事業リニューアルを行い、利用会員・協力会員ともに再登録時に改めてアセスメントを行いました。 また、援助を必要とする多くの方にご利用いただけるよう、チラシや市広報紙等で会員募集を行うとともに、新規利用会員の募集にあたり介護支援事業所等に周知を図りました。さらに、協力会員の技術向上のために研修会を開催しました。		利用会員数: 52人(年度末登録数) 協力会員数: 48人(年度末登録数) 協力会員研修会参加者: 14人
自己評価	今後の方針	
A	引き続き、チラシや市広報紙及び社協だより、ケーブルテレビ等で事業周知を図ります。また、ボランティア情報紙等で会員募集を行い、協力会員の確保に努めます。そのほか、関係機関や専門職等に向けて、継続的にPRを行います。	

A達成 B未達成 C検討中 D中止

《備考》

ふくしの杜ほんじょうプラン2 1 進捗管理シート

担当係

社会福祉係

基本戦略	市民の生活を支える仕組みづくり				
施策細目	横断的なサービスづくり				
重点施策	② 権利擁護の推進				
重点事項・ 重点的取組	事業				
	福祉サービス利用援助事業の推進				
	概要				
	県社協より受託している福祉サービス利用援助事業（あんしんサポート ネット）の普及・利用促進に努め、利用件数増を目指します。				
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年次計画 （予定）	日常生活自立支援事業の推進				
指標目標 ※年度初めに設定	福祉サービス利用援助事業利用件数（12件）	福祉サービス利用援助事業利用件数（15件）	福祉サービス利用援助事業利用件数（18件）	福祉サービス利用援助事業利用件数（21件）	

<令和3年度実施結果>

具体的な取組内容		成果
ホームページや社協だよりへの掲載や本庄市社協独自のチラシを作成して周知を図りました。本人から利用の意思がある場合、訪問による事業説明等を行い、スムーズな利用契約につなげる支援をしました。市の自立相談支援機関と連携し、制度が必要な方に対して、円滑な手続き及びサービスの利用に繋げました。		利用者数19人（新規契約7件） 相談件数26件 制度・概要の説明について、本人、家族の他に施設職員、介護支援専門員等の関係者からの相談がありました。
自己評価	今後の方針	
A	引き続き、ホームページや社協だよりで事業の周知を図るとともに、施設等関係機関への制度周知を図ります。また、市の自立相談支援機関等との連携を図り、対象者の把握に努め、必要な方を利用へつなげます。潜在的に制度利用が必要な方の発見のために、継続して地域住民の声を聞き、その周囲の支援者に制度を周知していきます。	

A 達成 B 未達成 C 検討中 D 中止

《備考》

ふくしの杜ほんじょうプラン2 1 進捗管理シート

担当係

社会福祉係

基本戦略	市民の生活を支える仕組みづくり				
施策細目	横断的なサービスづくり				
重点施策	② 権利擁護の推進				
重点事項・ 重点的取組	事業				
	法人成年後見事業の実施				
	概要 社協の法人成年後見事業は、成年後見の市長申し立てにも対応しています。司法分野等と連携、協力することにより、被後見人が安心して生活できるように積極的に法人成年後見活動を行います。				
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年次計画 (予定)	法人成年後見事業の実施				
指標目標 ※年度初めに設定	成年後見人等受 任件数の増 受任件数3件	成年後見人等受 任件数の増 受任件数4件	成年後見人等受 任件数の増 受任件数4件	成年後見人等受 任件数の増 受任件数4件	

<令和3年度実施結果>

具体的な取組内容		成果
市長申し立て案件で3件(後見類型2件、保佐類型1件)受任し、被後見人等の身上保護と金銭管理を行うことで、本人に不利益が生じないようにご本人の権利を守る支援を行いました。その内、被保佐人の認知症が進行し判断能力が低下したため、後見類型への変更申立を行い後見開始の審判が下りました。		受任件数3件(後見類型3件)
自己評価	今後の方針	
B	市からの委託により、本庄市成年後見サポートセンターを開業し、市と連携して広報啓発を行う中で権利擁護のニーズをキャッチし、法人後見の受任について検討を行います。また、社協で行っている福祉サービス利用援助事業から成年後見制度への移行も必要に応じて検討していきます。	

A達成 B未達成 C検討中 D中止

《備考》

ふくしの杜ほんじょうプラン2 1 進捗管理シート

担当係

社会福祉係

基本戦略	市民の生活を支える仕組みづくり				
施策細目	横断的なサービスづくり				
重点施策	② 権利擁護の推進				
重点事項・ 重点的取組	事業				
	権利擁護人材の発掘・育成				
	概要				
	市と連携して、権利擁護人材の発掘・育成に努めます。地域のNPO 団体と協力して、権利擁護人材の活動を支援します。				
年度	令和元年度	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度
年次計画 (予定)	権利擁護人材の発掘・育成				
指標目標 ※年度初めに設定	市民後見人養成 講座参加者15 名	法人向け後見人 養成講座参加者 15 名	市民後見人養成 講座フォロー アップ研修参加 者15 名	市民後見人養成 講座参加者15 名	

＜令和3年度実施結果＞

具体的な取組内容		成 果
市からの委託により、成年後見サポート センターを開設し、その中で市民後見人養成講座フォローアップ研修を全4 回で開催し、市民後見人養成講座修了者の支援に努めました。		市民後見人養成講座フォローアップ研修 全4 回で開催、9 名参加
自己評価	今後の方針	
B	本庄市成年後見サポート センターの中で市民後見人や法人後見の担い手を養成する研修等の開催を継続的に行い、権利擁護人材の育成を推進していきます。開催方法についても、オンラインの導入等、社会情勢を踏まえ、参加者が受講しやすい実施方法等の検討を行います。また、受講後の活動への支援等についても、引き続き市と連携し検討をしていくとともに、後見に関連する地域のNPO 法人等とも連携を図る機会を設けていきます。	

A 達成 B 未達成 C 検討中 D 中止

＜備考＞

ふくしの杜ほんじょうプラン2 1 進捗管理シート

担当係

社会福祉係

基本戦略	市民の生活を支える仕組みづくり				
施策細目	横断的なサービスづくり				
重点施策	② 権利擁護の推進				
重点事項・ 重点的取組	事業				
	成年後見制度の普及啓発				
	概要				
	広報、ホームページ等により成年後見制度の普及啓発に取り組みます。地域のNPO 法人と協力して、成年後見制度の普及に努めます。				
年度	令和元年度	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度
年次計画 (予定)	成年後見制度の普及啓発				
指標目標 ※年度初めに設定	成年後見制度の 広報等による啓 発	成年後見制度の 広報等による啓 発・ 地域のNPO 法人との情報交 換会の開催	中核的拠点の受 託運営・ 中核的 拠点機関及び成 年後見制度の啓 発	中核的拠点の受 託運営・ 中核的 拠点機関及び成 年後見制度の啓 発	

<令和3年度実施結果>

具体的な取組内容		成 果
市からの委託により、成年後見サポート センターを開設しました。パンフレット、リーフレットを作成し、市内関係機関等に配布しました。また、社協だより等による広報啓発を行うとともに、市民向けの成年後見制度講演会を開催し、成年後見サポート センターの周知及び権利擁護と成年後見制度の普及を行いました。		成年後見サポート センターのパンフレット等を作成し、医療機関、介護施設等の市内関係機関197 箇所に配布。 成年後見制度講演会 参加者83 名 周知の結果、相談件数が増加しました。一般相談21 件、専門相談17 件
自己評価	今後の方針	
A	引き続き、市からの委託により、中核的拠点である本庄市成年後見サポート センターを運営し、広報、社協だより、パンフレット等により周知を図っていきます。また、引き続き、成年後見制度について関係者等に向け、市広報及び社協だよりやパンフレット、SNS 等による周知を強化していき、成年後見制度を必要とする利用者やその家族が相談、利用できるよう整備していきます。次年度も市民向けの成年後見制度講演会を開催し、制度を周知していきます。	

A 達成 B 未達成 C 検討中 D 中止

《備考》

ふくしの杜ほんじょうプラン21 進捗管理シート

担当係

社会福祉係

基本戦略	市民の生活を支える仕組みづくり				
施策細目	横断的なサービスづくり				
重点施策	② 権利擁護の推進				
重点事項・ 重点的取組	事業				
	制度の狭間の人への支援				
	概要				
	制度の狭間にいる人への支援について、地域住民・支援関係者・福祉専門職・関係機関・団体等と連携して取り組みます。				
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年次計画 (予定)	制度の狭間の人への支援の検討				
指標目標 ※年度初めに設定	自立相談支援事業新規相談受付件数 144件 (国の指標による)	自立相談支援事業新規相談受付件数 144件 (国の指標による)	自立相談支援事業新規相談受付件数 144件 (国の指標による)	自立相談支援事業新規相談受付件数 144件 (国の指標による)	

<令和3年度実施結果>

具体的な取組内容		成果
自立相談支援事業業務を市より受託し、生活保護に至る前段階の自立支援の強化を図るため、生活困窮者に対し、就労その他の自立に関する相談支援を行いました。複合的な課題を抱える相談者等が「制度の狭間」に陥らないよう、必要に応じて包括的な支援を行い、自立の促進を図りました。新型コロナウイルス感染症の影響により、生活にお困りの方の相談に応じ、自立に向けた支援を行うとともに、県社協の特例貸付(総合支援資金)の申請者が円滑な手続き及び継続的支援に繋がるよう支援しました。		新規相談受付件数675件 指標目標件数を上回る相談受付を行いました。昨年同様新型コロナウイルス感染症の影響により、生活にお困りの方が県社協の特例貸付を借入れる際、自立相談窓口への相談が必須となっているため対応しました。
自己評価	今後の方針	
A	課題を抱える相談者等が「制度の狭間」に陥らないよう、関係機関と連携し相談者の必要に応じた包括的な支援を行い相談者の自立の促進を図ります。潜在的に制度利用が必要な方の発見のために、継続して地域住民の声を聞き、その周囲の支援者に制度を周知していきます。	

A達成 B未達成 C検討中 D中止

《備考》

ふくしの杜ほんじょうプラン2 1 進捗管理シート

担当係

庶務係

基本戦略	市民の生活を支える仕組みづくり				
施策細目	横断的なサービスづくり				
重点施策	③ 更生保護の推進				
重点事項・ 重点的取組	事業				
	相談支援機能の強化と相談体制の整備(1)【再掲】				
	概要 市民の日常生活上の課題への相談対応にあたり、相談支援機能を強化します。具体的には、定期的に担当職員によるケース検討や職員研修を開催し、職員個々の相談対応力の向上に努めます。				
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年次計画 (予定)	生活相談支援機能の強化(定例検討会・職員研修の実施)				
指標目標 ※年度初めに設定	組織内研修の実施	組織内研修の実施・OJTの導入	組織内研修の実施・階層別研修の実施	組織内研修の実施・階層別研修の実施	

<令和3年度実施結果>

具体的な取組内容		成果
新型コロナウイルス感染症の影響により、オンラインで実施する研修が増えたことにより受講環境を強化しました。また、2年度に引き続き、職員の資質の向上や組織力の向上を目指し、ナラティブアプローチ研修、個人情報保護研修、コンプライアンス研修等を実施し、組織内研修の充実を図りました。		個人情報保護研修やコンプライアンス研修を毎年実施するなど、事故が起きないように取り組んでいます。ナラティブアプローチ研修では、多様化する対人援助や相談援助事例に対応するために全職員で受講し、相談援助技術の向上を図りました。
自己評価	今後の方針	
A	さまざまな福祉ニーズに対応できる人材の育成と専門性の向上のため、必要な研修体系を整理して職員研修の充実を図り、市民の信頼と期待に応えられる職員となることを目指します。また、複雑かつ多様な生活・福祉課題にも的確に対応できるよう、知識や能力、技術などを身に付け、職員の育成に努めます。	

A達成 B未達成 C検討中 D中止

《備考》

ふくしの杜ほんじょうプラン21 進捗管理シート

担当係

地域福祉係

基本戦略	市民の生活を支える仕組みづくり				
施策細目	横断的なサービスづくり				
重点施策	③ 更生保護の推進				
重点事項・ 重点的取組	事業				
	相談支援機能の強化と相談体制の整備(2)【再掲】				
	概要 日常生活圏域(中学校区域)ごとにCSWを配置して、市民の生活課題をアウトリーチするための相談体制を整えます。また、CSWは個別支援とともに地域支援を行い、主に小学校圏域ごとに展開を想定している小地域福祉活動をサポートし、地域資源開発や住民相互の相談機能の構築に取り組みます。				
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年次計画 (予定)	調査研究・暫定的なCSWの配置			CSWの配置	
指標目標 ※年度初めに設定	担当業務を通じて、コミュニティ・ソーシャル・ワークを実践する	担当業務を通じて、コミュニティ・ソーシャル・ワークを実践する	担当業務を通じて、コミュニティ・ソーシャル・ワークを実践する	CSW配置の検討	

<令和3年度実施結果>

具体的な取組内容			成果
CSWの配置には至っておりませんが、民生委員・児童委員の見守り活動支援やサロン活動支援、その他の地域活動支援等を通じて、コミュニティ・ソーシャル・ワークの実践に取り組みました。また、圏域ごとにサロン担当者を配置して、運営等に関する相談に対応しました。コロナ禍により、県社協等が主催する研修会の開催(参加)はありませんでした。			生活支援コーディネーター等が立ち上げ支援を行い、市内2か所目の地域版住民参加型在宅福祉サービスが始まりました。コロナ禍におけるサロン活動再開に向けて、運営者研修会や相談支援を行いました。
自己評価	今後の方針		
B	新型コロナウイルス感染症の影響により、地域活動等は停滞気味となっていますが、ウィズコロナを意識しながら、無理なく活動を継続・再開していけるように地域活動等の支援を行います。引き続きコミュニティ・ソーシャル・ワークにより個別支援と地域支援活動に取り組みながら、コミュニティ・ソーシャル・ワーカー配置を目指して各職員がスキル向上に努めます。		

A達成 B未達成 C検討中 D中止

《備考》

ふくしの杜ほんじょうプラン2 1 進捗管理シート

担当係

社会福祉係

基本戦略	市民の生活を支える仕組みづくり				
施策細目	横断的なサービスづくり				
重点施策	③ 更生保護の推進				
重点事項・ 重点的取組	事業				
	更生保護団体との連携				
	概要				
	保護司会、更生保護女性会との連携を強化し、更生保護ボランティア団体と協力することにより、刑余者への支援に努めます。				
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年次計画 (予定)	更生保護団体と連携し、刑余者の社会復帰に向けた支援に取り組む。				
指標目標 ※年度初めに設定	更生保護団体との連携強化	更生保護団体と連携強化し、自立相談支援事業の周知を図る。	更生保護団体と連携強化し、自立相談支援事業の周知を図る。	更生保護団体と連携強化し、自立相談支援事業の周知を図る。	

＜令和3年度実施結果＞

具体的な取組内容		成 果
新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、更生保護団体の会議が縮小となり、制度の案内と協力の連携について依頼することができませんでした。		職員が更生保護団体の会議に出席できず、制度の案内と協力や連携について依頼することができませんでした。
自己評価	今後の方針	
B	更生保護団体の会議等の場に参加させていただくとともに、同団体との連絡体制等の整備についても検討をしていきます。	

A 達成 B 未達成 C 検討中 D 中止

＜備考＞

ふくしの杜ほんじょうプラン2 1 進捗管理シート

担当係

社会福祉係

基本戦略	市民の生活を支える仕組みづくり				
施策細目	横断的なサービスづくり				
重点施策	③ 更生保護の推進				
重点事項・ 重点的取組	事業				
	更生保護運動への協力				
	概要				
	社会を明るくする運動や更生保護関係の講演会、研修会等への参加について、市民に呼びかけ、更生保護運動に協力します。				
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年次計画 (予定)	更生保護運動への協力				
指標目標 ※年度初めに設定	運動や講演会等への参加	運動や講演会等への参加	運動や講演会への参加	運動や講演会への参加	

<令和3年度実施結果>

具体的な取組内容		成果
新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、社会を明るくする運動は中止となり、職員が街頭キャンペーンや講演会に参加できませんでした。		社会を明るくする運動が中止となり、職員が街頭キャンペーンや講演会に参加できませんでした。
自己評価	今後の方針	
B	社会を明るくする運動、講演会等に参加し、運動の周知や啓発物品の配付により啓発活動に協力していきます。	

A 達成 B 未達成 C 検討中 D 中止

《備考》

ふくしの杜ほんじょうプラン2 1 進捗管理シート

担当係

地域福祉係

基本戦略	市民の生活を支える仕組みづくり				
施策細目	横断的なサービスづくり				
重点施策	④ 災害時における支援体制の構築				
重点事項・ 重点的取組	事業				
	災害ボランティアセンターの設置・運営体制の整備(1)				
	概要				
	災害発生時に想定される様々な対応について、「災害対応マニュアル」の策定(見直し)を行います。また、災害時に備えるため市及び関係機関・団体と協議する場を設けるとともに、日頃からの交流促進に努めます。				
年度	令和元年度	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度
年次計画 (予定)	災害対応マニュアルの策定		災害対応マニュアルの点検		
指標目標 ※年度初めに設定	市関係課と協議 開始・災害対応 マニュアル (案) の策定	市関係課との協 議継続・災害対 応マニュアル (案) の検証	関係団体との協 定締結・マニ ュアルの点検	市関係課との協 議継続・マニ ュアルの点検	

<令和3年度実施結果>

具体的な取組内容		成果
市危機管理課・地域福祉課・市民活動推進課と、災害時のボランティア対応に関する協議を行い、災害対策本部と社協との連携について確認を行いました。		本庄市と災害時相互支援に関する協定書を4月1日付で締結しました。災害ボランティアセンター設置・運営のマニュアル内容を確認し、共通認識をもちました。
自己評価	今後の方針	
A	災害ボランティアセンター運営時の協力体制を整えるため、地域の災害支援関係団体等と相互支援・連携を目的とした協議の場を設け、共通認識が図れるよう働きかけていきます。併せて、災害対応マニュアルに風水害対応についての記述を追加します。	

A 達成 B 未達成 C 検討中 D 中止

《備考》

ふくしの杜ほんじょうプラン2 1 進捗管理シート

担当係

地域福祉係

基本戦略	市民の生活を支える仕組みづくり				
施策細目	横断的なサービスづくり				
重点施策	④ 災害時における支援体制の構築				
重点事項・ 重点的取組	事業				
	災害ボランティアセンターの設置・運営体制の整備(2)				
	概要 災害対応マニュアルに基づき、有事の際に職員がみな役割を認識して必要な行動がとれるよう、定期的に「災害ボランティアセンター運営訓練」等を実施します。センターの運営には社協職員だけでなく市職員・ボランティア等の協力も必要なことから、住民等に広く参加を呼びかけます。また、有事の際に連携が取れるよう、日頃から他市町村社協との交流や情報交換に努めます。				
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年次計画 (予定)	災害ボランティアセンター運営訓練の実施				
指標目標 ※年度初めに設定	社協職員対象運営訓練の実施	社協職員対象運営訓練の実施	訓練等の実施及びマニュアルの点検	災害ボランティア養成講座・職員訓練の実施	

<令和3年度実施結果>

具体的な取組内容		成果
コロナ禍により運営訓練の実施は見合わせ、災害ボランティアセンターの設置・運営に関する各種職員研修・訓練等に参加しました。 (6講座) 災害ボランティアコーディネーター養成講座 災害ボランティアセンター立ち上げ準備講座 災害対応力強化研修(基礎編・運営編) 上里町災害ボランティアセンター運営訓練 災害ボランティアセンターエクセル講座		引き続き、チラシや市広報紙及び社協だより、ケーブルテレビ等で事業周知を図ります。また、ボランティア情報紙等で会員募集を行い、協力会員の確保に努めます。そのほか、関係機関や専門職等に向けて、継続的にPRを行います。
自己評価	今後の方針	
A	引き続き、運営訓練に拘らない職員研修や訓練への参加を継続します。また、養成講座における参加者や関係団体とともに模擬訓練の機会を設けます。	

A達成 B未達成 C検討中 D中止

《備考》

ふくしの杜ほんじょうプラン2 1 進捗管理シート

担当係

地域福祉係

基本戦略	市民の生活を支える仕組みづくり				
施策細目	横断的なサービスづくり				
重点施策	④ 災害時における支援体制の構築				
重点事項・ 重点的取組	事業				
	災害ボランティアの養成				
	概要				
	社協ボランティアセンターの災害ボランティア育成を目的として、定期的に「災害ボランティア養成講座」を開催し、災害ボランティアの養成に努めます。				
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年次計画 (予定)	災害ボランティア養成講座の開催(年1回)				
指標目標 ※年度初めに設定	セミナー開催 (150人参加)	養成講座開催 (参加者30名)	ボランティア募集及び登録更新 (要綱整備)	災害ボランティア登録者数 (個人40名)	

＜令和3年度実施結果＞

具体的な取組内容		成果
社協だよりやボランティア情報紙において、新規ボランティアの募集を行いました。また、ボランティア登録要綱の改正を行い、これまで別々に行っていた、一般のボランティア登録と災害支援ボランティアの登録を一本化しました。		総計で6団体と35名が登録(内令和3年度登録は災害ボランティア2名)
自己評価	今後の方針	
B	定期的に災害ボランティアを募集するとともに、登録いただいている災害ボランティアに対して情報発信を行いつつ、新型コロナウイルスの状況をみながら養成講座を再開していきます。	

A達成 B未達成 C検討中 D中止

＜備考＞

ふくしの杜ほんじょうプラン2 1 進捗管理シート

担当係

地域福祉係

基本戦略	市民の生活を支える仕組みづくり				
施策細目	横断的なサービスづくり				
重点施策	④ 災害時における支援体制の構築				
重点事項・ 重点的取組	事業				
	被災者支援のための相談支援体制の整備				
	概要				
	市及び関係機関・団体と連携し、災害時に専門的な相談支援を行うための体制づくりを検討していきます。また、災害ボランティアセンターを開設した場合に、迅速に情報提供が行えるように各種団体との連携を強化します。				
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年次計画 (予定)	準備期間	関係団体等協議の場をつくる			
指標目標 ※年度初めに設定	市関係課等と協議を行い、方向性を検討する。	市内の災害関連ボランティア団体等と協議の場をつくる。	災害関連ボランティア団体等との協議継続・災害支援協定締結	災害関連ボランティア団体等との協議継続	

＜令和3年度実施結果＞

具体的な取組内容		成 果
(公社)こだま青年会議所と災害時の協力体制に関する協議を行い、協定を見玉郡内の社協と共に締結しました。また、締結に伴い、五者懇談会の開催に向けて準備を行いました。		令和4年3月1日付で「災害時における協力体制に関する協定」を締結しました。
自己評価	今後の方針	
A	災害ボランティアセンター運営時の協力体制を整えるため、市や災害支援関係団体等と、相互支援・連携を目的とする協議の場を定期的に設け、共通認識が図れるよう働きかけていきます。	

A 達成 B 未達成 C 検討中 D 中止

＜備考＞

ふくしの杜ほんじょうプラン2 1 進捗管理シート

担当係

地域福祉係

基本戦略	市民の生活を支える仕組みづくり				
施策細目	人にやさしい生活環境の充実				
重点施策	①ユニバーサルデザインとバリアフリーのまちづくり				
重点事項・ 重点的取組	事業				
	障害への理解を深めるための市民向け研修会等の開催(1)				
	概要 障害についての理解、様々な障害の特性への理解を深めることを目的とした市民向けの研修会を設けます。				
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年次計画 (予定)	研修会の実施				
指標目標 ※年度初めに設定	講座・イベント 等の開催(5件)	講座・イベント 等の開催(8件)	講座・イベント 等の開催(7件)	講座・イベント 等の開催(4件)	

<令和3年度実施結果>

具体的な取組内容		成 果
新型コロナウイルス感染症の影響により、予定していた多くの講座やイベントが中止となり、目標件数には至りませんでした。 【実施講座等名】①手話奉仕員養成講座(基礎課程)・②障がい者作品展(Web開催)		内容を工夫しながら、講座及びイベント2件を開催しました。 【参加者数等】①12名②13団体参加
自己評価	今後の方針	
B	思いやりのあるまちづくりを目指して、障害について正しい理解を得られる企画を検討します。また、今後の感染症拡大状況や対象者等の事情に合わせ、開催方法や内容等を検討しながら市民が参加しやすいイベント・講座等の開催を目指します。なお、新型コロナウイルス感染症の影響等を考慮して、指標目標を下方修正のうえ「講座・イベント数4件」としております。	

A達成 B未達成 C検討中 D中止

《備考》

ふくしの杜ほんじょうプラン2 1 進捗管理シート

担当係

庶務係

基本戦略	市民の生活を支える仕組みづくり				
施策細目	人にやさしい生活環境の充実				
重点施策	①ユニバーサルデザインとバリアフリーのまちづくり				
重点事項・ 重点的取組	事業				
	障害への理解を深めるための市民向け研修会等の開催(2)				
	概要				
	広報等でユニバーサルデザインやバリアフリー、障害者差別解消法等の周知を行い、市民の福祉意識の向上へつなげます。また、社協業務においても合理的配慮の提供に努めます。				
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年次計画 (予定)	広報等での周知				
指標目標 ※年度初めに設定	ホームページ閲覧数の増加(年間40,000件)	ホームページ閲覧数の増加(年間50,000件)	ホームページ閲覧数の増加(年間60,000件)	ホームページ閲覧数の増加(年間60,000件)	

<令和3年度実施結果>

具体的な取組内容		成果
広報活動は、迅速に情報発信ができるようユニバーサルデザインに配慮した作成を心掛けました。また、ホームページでは、多言語化を実施しました。さらに、SNSの充実を図り、情報のバリアフリーの推進にも取り組みました。		社協だよりやチラシ作成でユニバーサルデザインを使用するなど、より見やすい広報活動に心掛けました。また、ホームページやSNSは、迅速な情報発信に努めました。(ホームページ閲覧数年間59,052件)
自己評価	今後の方針	
B	障害のある人等の人権・疾病などに関する理解を深め、心のバリアフリーを推進するために、あらゆる機会や場において、啓発・広報活動の充実を図ります。また、引き続きユニバーサルデザインに配慮した広報活動やホームページの多言語化などの充実を図ります。支援を必要とする人への情報提供体制の充実に努め、心と情報のバリアフリー化を推進します。	

A達成 B未達成 C検討中 D中止

《備考》

ふくしの杜ほんじょうプラン2 1 進捗管理シート

担当係

地域福祉係

基本戦略	市民の生活を支える仕組みづくり				
施策細目	人にやさしい生活環境の充実				
重点施策	①ユニバーサルデザインとバリアフリーのまちづくり				
重点事項・ 重点的取組	事業				
	学校等と連携した福祉教育の充実				
	概要				
	体験学習だけでなく心のバリアフリーを目指した福祉学習の在り方等について学校、行政、当事者等と連携し、検討実施します。併せて、研修会やプログラム集の作成等といった福祉学習を行う教職員への支援を行います。				
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年次計画 (予定)	教員向け研修会の実施・福祉教育プログラム集の作成		プログラム集に基づいた福祉教育の実施・検証		
指標目標 ※年度初めに設定	プログラム集の 素案作成	障害平等研修 (DET)の実 施・プログラム 集完成	プログラム集の 完成	プログラム集の 完成	

<令和3年度実施結果>

具体的な取組内容		成 果
学校と丁寧な打ち合わせを行い、ボランティアや当事者等の皆様協力のもと、総合学習支援に取り組みました。また、福祉教育推進校の取組等を参考に、市と協議を行いながらプログラム集を作成しました。		<ul style="list-style-type: none"> ・プログラムの作成に取り組んでおりますが、完成には至っておりません。 ・総合学習支援(延べ10回)
自己評価	今後の方針	
B	学校からの依頼に応じて、地域の方々に協力いただきながら、総合学習支援を行います。プログラム集を完成させ効果を確認しながら、適宜内容の点検を行います。	

A達成 B未達成 C検討中 D中止

《備考》

ふくしの杜ほんじょうプラン2 1 進捗管理シート

担当係

地域福祉係

基本戦略	市民の生活を支える仕組みづくり				
施策細目	人にやさしい生活環境の充実				
重点施策	① ユニバーサルデザインとバリアフリーのまちづくり				
重点事項・ 重点的取組	事業				
	地域共生社会の実現に向けた意識の醸成				
	概要				
	地域のイベント や行事等で出前講座等といった福祉について学ぶ機会の提供を行います。住民同士が互いに助け、支え合いながら、共に生きる地域共生社会の実現に向けた意識の醸成に努めます。				
年度	令和元年度	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度
年次計画 (予定)	地域における福祉教育の実施				
指標目標 ※年度初めに設定	イベント 等での 福祉教育機会の 提供(5 件)	イベント 等での 福祉教育機会の 提供(6 件)	イベント 等での 福祉教育機会の 提供(2 件)	イベント 等での 福祉教育機会の 提供(3 件)	

<令和3年度実施結果>

具体的な取組内容		成 果
生活支援サポーター養成講座や学び舎にて、福祉教育ボランティアと職員で出前講座を行い、市民に学習の機会を提供しました。		【 出前講座】 手指や資材の消毒等、十分に感染症対策をとりながら 講座を行い、受講者に「 福祉について」学ぶ機会を提供することができました。
自己評価	今後の方針	
A	ボランティア情報紙やホームページによる周知を行うとともに、地域のイベント 等の開催状況を注視しながら、できる限り参加して福祉について学ぶ機会の提供に努めます。なお、コロナ禍において参加する際には、感染症対策を行いながらイベント に合わせて内容を検討していきます。	

A 達成 B 未達成 C 検討中 D 中止

《備考》

ふくしの杜ほんじょうプラン21 進捗管理シート

担当係

地域福祉係

基本戦略	市民の生活を支える仕組みづくり				
施策細目	人にやさしい生活環境の充実				
重点施策	② 移動の支援				
重点事項・ 重点的取組	事業				
	有償家事援助サービス事業の拡充【再掲】				
	概要 高齢者や障害者など、日常生活の援助を必要とする家庭に対して、市民の協力を得て低廉な料金で家事を援助する「有償家事援助サービス」について、買い物支援や通院支援等といった利用ニーズや現状の生活課題に沿ったサービス内容等の見直しを行います。また、実費弁償費についても見直しを図り、サービス協力者の育成に努めます。				
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年次計画 (予定)	有償家事援助サービス事業のサービス内容等の見直し				
指標目標 ※年度初めに設定	市内専門職・県内他社協を対象にアンケート調査実施	新事業移行に向けた準備	事業リニューアル後の周知及び継続的な見直し	会員募集のための周知及び継続的なPR	

<令和3年度実施結果>

具体的な取組内容		成果
サービス内容や料金等を見直し、令和3年度事業リニューアルを行い、利用会員・協力会員ともに再登録時に改めてアセスメントを行いました。 また、援助を必要とする多くの方にご利用いただけるよう、チラシや市広報紙等で会員募集を行うとともに、新規利用会員の募集にあたり介護支援事業所等に周知を図りました。さらに、協力会員の技術向上のために研修会を開催しました。		利用会員数: 52人(年度末登録数) 協力会員数: 48人(年度末登録数) 協力会員研修会参加者: 14人
自己評価	今後の方針	
A	引き続き、チラシや市広報紙及び社協だより、ケーブルテレビ等で事業周知を図ります。また、ボランティア情報紙等で会員募集を行い、協力会員の確保に努めます。そのほか、関係機関や専門職等に向けて、継続的にPRを行います。	

A達成 B未達成 C検討中 D中止

《備考》

ふくしの杜ほんじょうプラン2 1 進捗管理シート

担当係

地域福祉係

基本戦略	市民の生活を支える仕組みづくり				
施策細目	人にやさしい生活環境の充実				
重点施策	② 移動の支援				
重点事項・ 重点的取組	事業				
	移動支援を行う 団体への育成・ 支援の検討				
	概要				
	高齢者や障害者等の生活課題である移動困難を抱える人への支援をインフォーマルな社会資源として行う ボランティア・ NPO 法人、地域活動団体等の育成や活動への支援を検討します。				
年度	令和元年度	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度
年次計画 (予定)	移動支援を行う 団体の育成・ 支援の検討				
指標目標 ※年度初めに設定	社会福祉法人等 による移動支援 の検討	移動支援に関す る勉強会の開催	移動支援に関す る勉強会の開催	新たな移動支援 の検討	

<令和3年度実施結果>

具体的な取組内容		成 果
第1 層・ 第2 層生活支援体制整備協議体で「 移動支援に関する勉強会」を開催し、第1 層では4 つの分科会を設けて話し 合いを進めました。そのほか、移動販売車の開業にあたり、実施エリア選定等のサポートを行いました。		社会福祉法人による「 買い物支援」が2 自治会でスタートし、新たな資源の開拓につなげることができました。また、移動販売車が新たに1 台開業となりました。
自己評価	今後の方針	
A	引き続き、第1 層生活支援体制整備協議体で公共交通機関の利用状況等を調べるとともに、新たな資源開拓に取り組みます。	

A 達成 B 未達成 C 検討中 D 中止

《備考》

ふくしの杜ほんじょうプラン21 進捗管理シート

担当係

社会福祉係

基本戦略	市民の生活を支える仕組みづくり				
施策細目	人にやさしい生活環境の充実				
重点施策	③ 住まいの確保				
重点事項・ 重点的取組	事業				
	住居に関する相談への対応				
	概要				
	生活困窮等により住居の確保が困難な方に対して、関係する機関や不動産事業者等と連携し住まいの確保と安定した生活が送れるように支援を行います。				
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年次計画 (予定)	自立相談支援機関等との連携(窓口の案内、情報の提供・共有)				
指標目標 ※年度初めに設定	自立相談支援事業新規相談受付 件数 144件 (国の指標による)	自立相談支援事業新規相談受付 件数 144件 (国の指標による)	自立相談支援事業新規相談受付 件数 144件 (国の指標による)	自立相談支援事業新規相談受付 件数 144件 (国の指標による)	

<令和3年度実施結果>

具体的な取組内容		成果
自立相談支援事業業務を市より受託し、生活保護に至る前段階の自立支援の強化を図るため、生活困窮者に対し、就労その他の自立に関する相談支援を行い、事業利用のためのプラン作成等を通じて、住居の確保が困難な方を住居確保給付金の支給等の支援に繋げました。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、家賃の支払が困難な方等、生活に困った方に対し、県社協の特例貸付の円滑な手続き及び継続的な支援に繋がるよう支援しました。		新規相談受付件数675件 指標目標件数を上回る相談受付を行いました。うち86件が、住居確保給付金の利用に繋がりました。昨年同様県社協の特例貸付を借入れる際、自立相談窓口への相談が必須となっているため対応しました。
自己評価	今後の方針	
A	住居関係の市の担当課や関係機関、事業者等と連携し、住居の確保が困難な方に対して、引き続き住居確保給付金の支給等の必要な制度等へつなぎ、自立相談支援体制の維持に努めます。	

A 達成 B 未達成 C 検討中 D 中止

《備考》

ふくしの杜ほんじょうプラン2 1 進捗管理シート

担当係

地域福祉係

基本戦略	市民の生活を支える仕組みづくり				
施策細目	人にやさしい生活環境の充実				
重点施策	③ 住まいの確保				
重点事項・ 重点的取組	事業				
	空き家の福祉的利用の促進				
	概要				
	空き家になっている住宅の福祉的利用の推進を検討します。具体的には、サロンや福祉目的利用の際の公的援助等について周知・調整を図り、利用の促進に努めます。				
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年次計画 (予定)	空き家の福祉的利用の促進				
指標目標 ※年度初めに設定	サロンの空き家活用支援・サロンと連携した空き家情報の把握	サロンの空き家活用支援・サロンと連携した空き家情報の把握	サロン等と連携した空き家情報の把握及び活用支援	サロン等と連携した空き家情報の把握及び活用支援	

<令和3年度実施結果>

具体的な取組内容		成果
新たに空き家を活用したサロンが活動を開始することとなり、県社協の助成金申請支援等を行いました。そのほか、空き家・空き店舗を活用して、すでに活動しているサロンの運営支援を行いました。		空き家を活用した新規サロンを支援して、県社協の助成金交付につながりました。市内で空き家・空き店舗を活用するサロンが1か所増えて、5か所になりました。
自己評価	今後の方針	
A	引き続き空き家情報の収集や、活動場所を探している団体の支援等を通じて、空き家の福祉的利活用について検討していきます。	

A 達成 B 未達成 C 検討中 D 中止

《備考》

ふくしの杜ほんじょうプラン2 1 進捗管理シート

担当係

庶務係

基本戦略	人と人とのつながりづくり				
施策細目	小地域における福祉活動の推進				
重点施策					
重点事項・ 重点的取組	事業				
	相談支援機能の強化と相談体制の整備(1)【再掲】				
	概要				
	市民の日常生活上の課題への相談対応にあたり、相談支援機能を強化します。具体的には、定期的に担当職員によるケース検討や職員研修を開催し、職員個々の相談対応力の向上に努めます。				
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年次計画 (予定)	生活相談支援機能の強化(定例検討会・職員研修の実施)				
指標目標 ※年度初めに設定	組織内研修の実施	組織内研修の実施・OJTの導入	組織内研修の実施・階層別研修の実施	組織内研修の実施・階層別研修の実施	

<令和3年度実施結果>

具体的な取組内容		成果
新型コロナウイルス感染症の影響により、オンラインで実施する研修が増えたことにより受講環境を強化しました。また、2年度に引き続き、職員の資質の向上や組織力の向上を目指し、ナラティブアプローチ研修、個人情報保護研修、コンプライアンス研修等を実施し、組織内研修の充実を図りました。		個人情報保護研修やコンプライアンス研修を毎年実施するなど、事故が起きないように取り組んでいます。ナラティブアプローチ研修では、多様化する対人援助や相談援助事例に対応するために全職員で受講し、相談援助技術の向上を図りました。
自己評価	今後の方針	
A	さまざまな福祉ニーズに対応できる人材の育成と専門性の向上のため、必要な研修体系を整理して職員研修の充実を図り、市民の信頼と期待に応えられる職員となることを目指します。また、複雑かつ多様な生活・福祉課題にも的確に対応できるよう、知識や能力、技術などを身に付け、職員の育成に努めます。	

A達成 B未達成 C検討中 D中止

《備考》

ふくしの杜ほんじょうプラン2 1 進捗管理シート

担当係

地域福祉係

基本戦略	人と人とのつながりづくり				
施策細目	小地域における福祉活動の推進				
重点施策					
重点事項・ 重点的取組	事業				
	相談支援機能の強化と相談体制の整備(2)【再掲】				
	概要				
	日常生活圏域ごとにCSWを配置して、アウトリーチするための相談体制を整えます。CSWは、個別支援とともに、個別支援を通じた地域支援を行い、主に小学校圏域ごとに展開を想定している小地域福祉活動をサポートし、地域資源開発や住民相互の相談機能の構築に取り組みます。				
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年次計画 (予定)	調査研究・暫定的なCSWの配置			CSWの配置	
指標目標 ※年度初めに設定	担当業務を通じて、コミュニティ・ソーシャル・ワークを実践する	担当業務を通じて、コミュニティ・ソーシャル・ワークを実践する	担当業務を通じて、コミュニティ・ソーシャル・ワークを実践する	CSW配置の検討	

<令和3年度実施結果>

具体的な取組内容			成果
CSWの配置には至っておりませんが、民生委員・児童委員の見守り活動支援やサロン活動支援、その他の地域活動支援等を通じて、コミュニティ・ソーシャル・ワークの実践に取り組みました。また、圏域ごとにサロン担当者を配置して、運営等に関する相談に対応しました。コロナ禍により、県社協等が主催する研修会の開催(参加)はありませんでした。			生活支援コーディネーター等が立ち上げ支援を行い、市内2か所目の地域版住民参加型在宅福祉サービスが始まりました。コロナ禍におけるサロン活動再開に向けて、運営者研修会や相談支援を行いました。
自己評価	今後の方針		
B	新型コロナウイルス感染症の影響により、地域活動等は停滞気味となっていますが、ウィズコロナを意識しながら、無理なく活動を継続・再開していけるように地域活動等の支援を行います。引き続きコミュニティ・ソーシャル・ワークにより個別支援と地域支援活動に取り組みながら、コミュニティ・ソーシャル・ワーカー配置を目指して各職員がスキル向上に努めます。		

A達成 B未達成 C検討中 D中止

《備考》

ふくしの杜ほんじょうプラン2 1 進捗管理シート

担当係

地域福祉係

基本戦略	人と人とのつながりづくり				
施策細目	小地域における福祉活動の推進				
重点施策					
重点事項・ 重点的取組	事業				
	小地域における住民の福祉活動の組織と活動拠点の整備				
	概要				
	小学校区等の小地域ごとに、住民主体の相談支援活動のための組織づくりについて、地域住民に働きかけを行います。取り組みが可能な地域から「モデル地区」として順次住民組織の体制づくりを開始して、社協のCSW が取組をサポートします。				
年度	令和元年度	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度
年次計画 (予定)	調査研究・モデル地区の募集			小地域福祉モデル事業開始	
指標目標 ※年度初めに設定	自治会・サロン 等地縁団体との 連携強化	生活支援体制整備 協議体との協 働推進とモデル 地区募集準備	モデル地区の 選定	モデル地区の 選定	

<令和3年度実施結果>

具体的な取組内容		成 果
新型コロナウイルス感染症の影響により、サロン活動や会食事業が休止となったため、感染対策を徹底したうえでのサロン活動再開に向けてコロナ感染対策等のチラシを発送しました。一時はサロン全体のうち約7 割が休止していましたが、再開するサロンが増えました(9 割が再開) 。		コロナ禍で一時的に地域活動が停滞しましたが、各サロンに働きかけを行い活動再開に向けて動き出すサロンが増えました。
自己評価	今後の方針	
B	新型コロナウイルス感染症の状況をみながら、小地域における住民主体の福祉活動に関するモデル地区の選定等について検討します。	

A 達成 B 未達成 C 検討中 D 中止

《備考》

ふくしの杜ほんじょうプラン2 1 進捗管理シート

担当係

地域福祉係

基本戦略	人と人とのつながりづくり				
施策細目	小地域における福祉活動の推進				
重点施策					
重点事項・ 重点的取組	事業				
	当事者組織の支援				
	概要				
	共通の課題を抱えた対等なメンバー同士による相互援助活動や当事者組織づくりを支援し、住民相互の悩みごと解消や支え合い体制の整備に努めます。				
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年次計画 (予定)	当事者組織活動の支援				
指標目標 ※年度初めに設定	当事者の組織化支援と集いの場の確保	当事者の組織化支援と集いの場の確保	当事者の組織化支援と集いの場の確保	当事者の組織化支援と集いの場の確保	

<令和3年度実施結果>

具体的な取組内容		成果
当事者団体や福祉サロンの運営支援を通じて、当事者の組織化及び集いの場の確保を支援しました。また、当事者団体の運営上の相談に応じ、活動内容や活動場所等に関する情報提供を行いました。		共同募金配分金を活用して、当事者団体団体を含む福祉サロン8か所（新規登録1サロン）の支援を行いました。障害がある方や介護に悩む方、社会に参加しにくい若者等を対象とした福祉サロンの活動により、当事者同士の相互交流が深まりました。
自己評価	今後の方針	
A	これまで、特定の福祉課題を抱えた人を対象として活動するサロンを「福祉サロン」として、一般的な地域のサロンと区別しておりましたが、その垣根を取り払い「ふれあいいきいきサロン」として一本化します。また、各サロンごとに参加対象等を分かりやすく整理して、市民に周知を行うことで活性化を目指します。	

A達成 B未達成 C検討中 D中止

《備考》

ふくしの杜ほんじょうプラン2 1 進捗管理シート

担当係

社会福祉係

基本戦略	人と人とのつながりづくり				
施策細目	小地域における福祉活動の推進				
重点施策					
重点事項・ 重点的取組	事業				
	福祉関係講座受講者等の実践活動支援の検討				
	概要				
	市と連携して、認知症サポーター養成講座や市民後見人養成講座等の講座受講者が、講座内容を地域において実践していくための仕組みを検討します。				
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年次計画 (予定)	講座受講者の実践活動支援の検討				
指標目標 ※年度初めに設定	講座受講者の実践活動支援の検討	講座受講者の実践活動支援の検討	講座受講者の実践活動支援の検討	講座受講者の実践活動支援の検討	

<令和3年度実施結果>

具体的な取組内容		成果
市及び地域包括支援センターが協力し、認知症サポーターステップアップ講座を開催。受講者には、認知症啓発イベントやオレンジカフェ等で継続的に活動いただいています。また、サポーターを交えて定期的に情報交換を行い、実践活動につなげています。市民後見人養成講座受講者の活動の場づくりについて市と協議しました。また、受講者に呼びかけ、市から受託した本庄市成年後見サポートセンターの専門相談員の増員を図りました。		認知症サポーター登録者は、令和3年度で51名となりました。イベントやオレンジカフェへの協力、意見交換会等、実践活動につながる支援を行いました。
自己評価	今後の方針	
A	本庄市成年後見サポートセンターの専門相談員について、令和4年度、さらに2名増員します。また、講座受講者の受講後の活動の場づくりやコーディネート機能等について、講座受講者の意見を聞きつつ、引き続き市と連携しながら実践につながる仕組みづくりの検討を進めていきます。	

A 達成 B 未達成 C 検討中 D 中止

《備考》

ふくしの杜ほんじょうプラン2 1 進捗管理シート

担当係

地域福祉係

基本戦略	人と人とのつながりづくり				
施策細目	小地域における福祉活動の推進				
重点施策					
重点事項・ 重点的取組	事業				
	サロン活動の推進				
	概要 地域におけるサロン活動の立ち上げ支援・運営支援等を通じて、サロン活動の活性化とともに、サロン数の一層の増加を目指します。				
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年次計画 (予定)	サロン活動の推進				
指標目標 ※年度初めに設定	サロン数の増加 (2か所増)	サロン未設置地域への働きかけ・サロン運営支援(2か所増)	サロン未設置地域への働きかけ・サロン運営支援(2か所増)	サロン未設置地域への働きかけ・サロン運営支援(2か所増)	

<令和3年度実施結果>

具体的な取組内容		成果
市内4 圏域ごとにサロン担当者を配置して、出前講座やボランティア紹介、助成金の情報提供などを行い、サロン運営支援に努めました。また、地域課題から「畑サロン」立ち上げに向けて、高校・自治会等をつなぐ支援を行いました。そのほか、コロナ禍で休止となるサロンが多く、参加者の認知機能の低下等が懸念されることから、サロン運営者を対象に「認知症サポーター養成講座」を開催し、認知症の理解促進に努めました。		認知症サポーター養成講座には、45 サロン(計77人)が参加しました。 ・ふれあいいきいきサロン57か所(1,660人参加)増減なし ・福祉サロン8か所(193人参加)1サロン増
自己評価	今後の方針	
B	ふれあいいきいきサロンの要綱改正を行い、サロンの定義等を明確化することで新規サロンを増やします。また、サロン情報紙を発行・全戸配布し、市民への周知やサロン設置に向けた働きかけを行うとともに、引き続き圏域別の担当者が参加者のニーズ把握に努めます。そのほか、参加費徴収やその他の方法を通じて、サロンの財源確保や活動の活性化につながる方法をとともに考えるなど、住民主体の促進について働きかけを行います。	

A 達成 B 未達成 C 検討中 D 中止

《備考》

ふくしの杜ほんじょうプラン21 進捗管理シート

担当係

社会福祉系

基本戦略	人と人とのつながりづくり				
施策細目	関係機関・団体等との連携強化				
重点施策					
重点事項・重点的取組	事業				
	多職種連携の推進				
	概要				
	複合ニーズ世帯の早期発見・早期解決や「制度の狭間の問題」に適切に対応するため、地域における多職種のネットワーク化を推進し、日々の相談援助活動をより円滑に行うための環境整備に努めます。多職種連携セミナーを開催し、講演や事例報告、グループワーク等を通じて、多職種が互いの業務を理解しながら連携を促進できるための機会提供に努めます。				
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年次計画 (予定)	多職種連携の推進 多職種連携セミナーの開催				
指標目標 ※年度初めに設定	自立相談支援調整会議20回開催	自立相談支援調整会議23回開催 多職種連携セミナー開催に向けてのニーズ把握・検討	自立相談支援調整会議22回開催 多職種連携セミナー開催に向けてのニーズ把握・検討	自立相談支援調整会議22回開催 多職種連携セミナー開催に向けてのニーズ把握・検討	

<令和3年度実施結果>

具体的な取組内容		成果
市からの委託により、複合的な課題を抱える相談者等が「制度の狭間」に陥らないよう、相談者の必要に応じた包括的な自立相談支援のため、多職種（市関係課職員・就労支援員・福祉施設相談員・就労準備事業支援員等）と連携し、自立相談支援調整会議を開催しました。会議の中で、支援方針等を共有・決定し、支援につなげました。		自立相談支援調整会議22回開催。 プラン作成した132件のうち、延べ100件の就労自立、継続支援を行い、制度の狭間に陥らないよう支援しました。
自己評価	今後の方針	
A	引き続き自立相談支援事業を実施する中で、自立相談支援調整会議を開催し、多職種（ハローワーク、障害者就労支援センター、病院等）との連携を強化します。また、多職種連携セミナー開催に向けてのニーズ等を把握し、実施に向け検討していきます。	

A達成 B未達成 C検討中 D中止

《備考》

ふくしの杜ほんじょうプラン2 1 進捗管理シート

担当係

社会福祉係

基本戦略	人と人とのつながりづくり				
施策細目	関係機関・団体等との連携強化				
重点施策					
重点事項・ 重点的取組	事業				
	社会福祉法人相互の連携体制づくり				
	概要				
	彩の国あんしんセーフティ ネット 事業を推進して、生活困窮者支援の充実を図ります。また、これまで構築してきたネットワークを活かし、市内の社会福祉法人相互の連携体制づくりに努めます。さらに、市内社会福祉法人の地域貢献活動をサポートします。				
年度	令和元年度	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度
年次計画 (予定)	彩の国あんしんセーフティ ネット 事業の推進 社会福祉法人の連携体制づくり				
指標目標 ※年度初めに設定	彩の国あんしん セーフティ ネット 事業相談件数 15 件	彩の国あんしん セーフティ ネット 事業相談件数 18 件	彩の国あんしん セーフティ ネット 事業相談件数 18 件	彩の国あんしん セーフティ ネット 事業相談件数 20 件	

<令和3年度実施結果>

具体的な取組内容		成 果
他制度等で支援が難しい方や、制度等へつなげる間の一時的かつ緊急的な支援が必要な方に対して、彩の国あんしんセーフティ ネット 事業を市内社会福祉法人と連携して実施し、現物給付等の支援を行いました。		・ 彩の国あんしんセーフティ ネット 事業における市内社会福祉法人との連携（市内5 法人／相談19 件）
自己評価	今後の方針	
A	新型コロナウイルス感染症の影響により休業や失業等で経済的に困りの方からの相談が続いており、彩の国あんしんセーフティ ネット 事業を継続し、社会福祉法人とのより一層の連携を図り、支援の強化に努めます。加えて、未参加法人に対して参加を働きかけ、同事業に取り組む社会福祉法人の増加を図ります。	

A 達成 B 未達成 C 検討中 D 中止

《備考》

ふくしの杜ほんじょうプラン21 進捗管理シート

担当係

地域福祉係

基本戦略	人と人とのつながりづくり				
施策細目	関係機関・団体等との連携強化				
重点施策					
重点事項・ 重点的取組	事業				
	職能団体等の組織化支援の検討				
	概要 地域の福祉専門職等の活動支援・連携強化を目的として、市内職能団体・業種団体等の組織化支援を検討していきます。				
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年次計画 (予定)	職能団体等の組織化支援の検討				
指標目標 ※年度初めに設定	職能団体等の組織化支援の検討	職能団体等の組織化支援の検討	職能団体等の組織化支援の検討	職能団体等の組織化支援の検討	

<令和3年度実施結果>

具体的な取組内容		成果
具体的な取組はできませんでした。職能団体等の組織化支援については、改めて検討することといたしました。		
自己評価	今後の方針	
C	市が実施している多職種連携の事例研究等の動向も注視しながら、職能団体等の組織化支援について社協として何かできるか改めて検討していきます。	

A達成 B未達成 C検討中 D中止

《備考》

ふくしの杜ほんじょうプラン2 1 進捗管理シート

担当係

地域福祉係

基本戦略	地域で共に生きるための人づくり				
施策細目	福祉学習の充実				
重点施策					
重点事項・ 重点的取組	事業				
	学校等と連携した福祉教育の充実【再掲】				
	概要				
	体験学習だけでなく心のバリアフリーを目指した福祉学習の在り方等について学校、行政、当事者等と連携し、検討実施します。併せて、研修会やプログラム集の作成等といった福祉学習を行う教職員への支援を行います。				
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年次計画 (予定)	教員向け研修会の実施・福祉教育プログラム集の作成		プログラム集に基づいた福祉教育の実施・検証		
指標目標 ※年度初めに設定	プログラム集の 素案作成	障害平等研修 (DET)の実 施・プログラム 集完成	プログラム集の 完成	プログラム集の 完成	

<令和3年度実施結果>

具体的な取組内容		成 果
学校と丁寧な打ち合わせを行い、ボランティアや当事者等の皆様協力のもと、総合学習支援に取り組みました。また、福祉教育推進校の取組等を参考に、市と協議を行いながらプログラム集を作成しました。		<ul style="list-style-type: none"> ・プログラムの作成に取り組んでおりますが、完成には至っておりません。 ・総合学習支援(延べ10回)
自己評価	今後の方針	
B	学校からの依頼に応じて、地域の方々に協力いただきながら、総合学習支援を行います。プログラム集を完成させ効果を確認しながら、適宜内容の点検を行います。	

A達成 B未達成 C検討中 D中止

《備考》

ふくしの杜ほんじょうプラン21 進捗管理シート

担当係

地域福祉係

基本戦略	地域で共に生きるための人づくり				
施策細目	福祉学習の充実				
重点施策					
重点事項・ 重点的取組	事業				
	学生の福祉意識の醸成に向けた取り組み				
	概要				
	学生のボランティア活動への参加機会を設け、周知等に努めます。福祉についての学びや地域課題への気づきに導くボランティアメニューの実施を行います。				
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年次計画 (予定)	ボランティア体験プログラムの実施				
指標目標 ※年度初めに設定	ボランティア 体験プログラム メニュー8件	ボランティア 体験プログラム メニュー8件	ボランティア体 験プログラムメ ニュー3件実 施・80名参加	ボランティア体 験プログラムメ ニュー4件実 施・90名参加	

<令和3年度実施結果>

具体的な取組内容		成果
新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、8月に予定していた施設体験メニューを一部中止とし、冬に改めて体験メニューを実施しました。また、コロナ禍をふまえ、新たに在宅でできる活動として、「おうちでボランティアメニュー」を企画し、絵手紙や手作りのぞうきん、ゴミ箱などを募集し、誰でも気軽に参加できる内容にしました。		小学1年生～70歳代まで延べ91名の参加があり、福祉意識の醸成につながることができました。おうちでボランティアメニューでは、雑巾353枚、紙のゴミ箱2,273個、絵手紙150枚が集まり、地域の高齢者、福祉施設等に提供しました。(3メニュー実施)
自己評価	今後の方針	
A	コロナ禍におけるボランティア体験について、方法や内容を工夫しながら、質の高い活動の提供に努め、メニュー内容の充実を図ります。また、参加者に対し、ボランティア活動の意義を深く学びながら、積極性を引き出すための工夫をしていきます。	

A達成 B未達成 C検討中 D中止

《備考》

ふくしの杜ほんじょうプラン2 1 進捗管理シート

担当係

地域福祉係

基本戦略	地域で共に生きるための人づくり				
施策細目	福祉学習の充実				
重点施策					
重点事項・ 重点的取組	事業				
	福祉教育ボランティアの育成				
	概要				
	学校や地域で福祉教育を推進する「福祉教育ボランティア」の養成研修やフォローアップ研修等を開催し、福祉教育ボランティアの増員を目指します。				
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年次計画 (予定)	福祉教育ボランティアの育成				
指標目標 ※年度初めに設定	福祉教育ボランティア会議 (6回)	ボランティア会議 (6回) フォローアップ 講座(1回)	福祉教育ボランティア会議(4 回)	福祉教育ボランティア養成講座 の開催	

<令和3年度実施結果>

具体的な取組内容		成果
福祉教育ボランティア会議を4回開催し、活動報告や課題について話し合いました。また、生活支援サポーター養成講座や、ボランティア関連の講座受講者に福祉教育ボランティアへの参加を呼びかけ、新規ボランティア獲得に努めました。		2名の新規登録があり、継続して活動していただきました。会議では、出前講座の内容をよりよくするための意見交換など、活発な話し合いを行いました。 ・会議4回開催 ・のべ23名参加
自己評価	今後の方針	
A	コロナ禍において、感染症対策を徹底しながら安全に活動を継続することを最優先に、福祉教育ボランティア会議等の場を活用しながら、ボランティアの研鑽と場の確保に努めます。また、福祉教育ボランティア養成講座を開催し、新規ボランティアの獲得と現在活動しているボランティアのスキルアップを図ります。	

A達成 B未達成 C検討中 D中止

《備考》

ふくしの杜ほんじょうプラン2 1 進捗管理シート

担当係

地域福祉係

基本戦略	地域で共に生きるための人づくり				
施策細目	地域人材の確保・育成				
重点施策					
重点事項・ 重点的取組	事業				
	多様なニーズに対応したボランティアの育成				
	概要 地域の生活課題やニーズを把握し、ボランティアを必要とする人のために、各種ボランティアの養成を行っていきます。地域で主体となり活動できるボランティアの育成を目的とした各種講座を開催し、講座参加者が具体的なボランティア活動につながるよう支援します。				
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年次計画 (予定)	各種ボランティア講座の開催				
指標目標 ※年度初めに設定	講座数7件	講座数8件	講座数4件	講座数3件	

<令和3年度実施結果>

具体的な取組内容		成果
新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、規模を縮小しながらボランティア関連講座として4つの講座を開催しました。 【講座名】手話奉仕員養成講座・おとなボランティアスクール卒業生交流会・音訳ボランティア養成講座・ボランティア活動のためのカウンセリング講座基本&ステップアップ講座		4講座あわせて48名(女性約9割)の参加があり、30歳~70歳代と幅広い世代の参加がありました(60歳代以上が約7割)。また、参加した人のうち約4割の方が、その後、新たにボランティア活動等を始め、地域福祉人材の確保につながりました。
自己評価	今後の方針	
A	感染対策を徹底しながら、各種講座を開催して人材育成に努めます。また、講座参加者のその後のボランティア活動支援及びオンラインの活用等について検討していきます。	

A達成 B未達成 C検討中 D中止

《備考》

ふくしの杜ほんじょうプラン2 1 進捗管理シート

担当係

地域福祉係

基本戦略	地域で共に生きるための人づくり				
施策細目	地域人材の確保・育成				
重点施策					
重点事項・ 重点的取組	事業				
	ボランティアコーディネート機能の充実				
	概要				
	市や地域団体等と連携し、地域での生活課題や埋もれているボランティアニーズの把握に努め、個別的なニーズへの対応を充実させていきます。また、様々な媒体を活用し、ボランティア情報の発信を積極的に行い、ボランティアニーズとボランティア活動のマッチング件数を増やします。				
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年次計画 (予定)	個別ボランティアニーズの把握 ボランティアコーディネートにおけるマッチング件数の増加				
指標目標 ※年度初めに設定	地域の情報収集・ボランティア情報発信方法の検討(マッチング80件)	新たな媒体の活用による情報収集・発信(マッチング90件)	新たな媒体の活用による情報収集・発信(マッチング90件)	様々な媒体による情報発信の検討	

<令和3年度実施結果>

具体的な取組内容			成果
生活支援サポーター養成講座、地域ケア個別会議等に参加し、個別的なニーズの把握とボランティアセンターの機能周知に努めました。また、ボランティアセンター運営委員会を2回(うち1回は書面開催)開催し、センターの適正な運営や、地域のボランティア活動の現状・課題の把握に努めました。			施設やふれあいサロン等での活動希望や依頼が増えました。【個別ニーズマッチング率】71.4%【施設・団体ニーズマッチング率】75%
自己評価	今後の方針		
B	ホームページやSNS等を活用し、ボランティア情報発信の充実を図るとともに、市民の方、専門職・関係機関等へのボランティアセンターの機能の周知に努めます。また、コロナ禍における新たなボランティアニーズや個別ニーズへの対応について、生活支援コーディネーター等と連携しながら、新たな支援の方向性やマッチング手法等を検討していきます。		

A達成 B未達成 C検討中 D中止

<<備考>>

ふくしの杜ほんじょうプラン2 1 進捗管理シート

担当係

地域福祉係

基本戦略	地域で共に生きるための人づくり				
施策細目	地域人材の確保・育成				
重点施策					
重点事項・ 重点的取組	事業				
	地域における福祉人材の発掘・育成				
	概要				
	地域の支え合い体制の構築に向けて、地域団体や関係機関等と連携し、小地域で活動する福祉人材を発掘・育成します。また、市と連携して、生活支援体制整備事業における生活支援サポーターの養成に努めます。				
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年次計画 (予定)	地域福祉人材の発掘 生活支援サポーターの養成				
指標目標 ※年度初めに設定	住民向けフォーラムの開催(事業の周知を図る)	サポーター養成講座受講生を対象にスキルアップ講座を開催	生活支援サポーター養成講座開催	生活支援サポーター養成講座等を開催	

<令和3年度実施結果>

具体的な取組内容		成果
市より受託している第1層生活支援コーディネーター業務を通じて生活支援サポーター養成講座を全5回で実施しました。また、平成28年度から令和3年度(6年間)の生活支援サポーター養成講座修了者を対象に、スキルアップ講座を全3回で開催しました。		生活支援サポーター養成講座は9名が修了され、スキルアップ講座には13名(修了者の約2割)が参加されました。また、個別ニーズのマッチングを3件行いました。 【養成講座修了者総数77名】
自己評価	今後の方針	
A	引き続き、生活支援サポーター養成講座等を開催するなど、今後も地域における福祉人材の発掘・育成に努めます。	

A達成 B未達成 C検討中 D中止

《備考》

ふくしの杜ほんじょうプラン2 1 進捗管理シート

担当係

地域福祉係

基本戦略	地域で共に生きるための人づくり				
施策細目	専門職・支援関係者の育成と支援				
重点施策					
重点事項・ 重点的取組	事業				
	民生委員・児童委員等支援関係者の支援				
	概要				
	民生委員・児童委員と連携して、地域の見守り体制づくりに努めます。また、地域で活動する支援関係者を支援し、必要な機関等につなぎながら、地域の福祉人材の活動をサポートします。				
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年次計画 (予定)	支援関係者の支援				
指標目標 ※年度初めに設定	高齢者見守り事業利用者数(配食315件・安否1,010件)	高齢者見守り事業利用者数(配食325件・安否1,035件)	高齢者世帯等安否確認事業利用者数(安否1,050件)	高齢者世帯等安否確認事業利用者数(安否1,070件)	

<令和3年度実施結果>

具体的な取組内容		成果
<p>地域の見守りが必要な高齢者世帯等に対して「高齢者世帯等安否確認事業」を実施して、民生委員・児童委員活動を支援しました。また、民生委員・児童委員を対象に見守り活動に関するアンケート調査を実施し、事業内容の見直しについて協議を重ねました。</p> <p>●民生委員・児童委員協議会定例会(7地区)参加</p>		<p>感染症対策をとりながら、電話や訪問等で安否確認を行っていただきました。【利用世帯数】高齢者世帯等安否確認事業1,082件</p>
自己評価	今後の方針	
A	<p>安否確認事業をはじめ、地域で活動するうえで活用いただける事業や社会資源について情報発信しながら、民生委員・児童委員活動を支援します。</p>	

A達成 B未達成 C検討中 D中止

《備考》

ふくしの杜ほんじょうプラン21 進捗管理シート

担当係

社会福祉系

基本戦略	地域で共に生きるための人づくり				
施策細目	専門職・支援関係者の育成と支援				
重点施策					
重点事項・重点的取組	事業				
	多職種連携の推進【再掲】				
	概要 複合ニーズ世帯の早期発見・早期解決や「制度の狭間の問題」に適切に対応するため、地域における多職種のネットワーク化を推進し、日々の相談援助活動をより円滑に行うための環境整備に努めます。多職種連携セミナーを開催し、講演や事例報告、グループワーク等を通じて、多職種が互いの業務を理解しながら連携を促進できるための機会提供に努めます。				
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年次計画（予定）	多職種連携の推進 多職種連携セミナーの開催				
指標目標 ※年度初めに設定	自立相談支援調整会議20回開催	自立相談支援調整会議23回開催 多職種連携セミナー開催に向けてのニーズ把握・検討	自立相談支援調整会議22回開催 多職種連携セミナー開催に向けてのニーズ把握・検討	自立相談支援調整会議22回開催 多職種連携セミナー開催に向けてのニーズ把握・検討	

＜令和3年度実施結果＞

具体的な取組内容		成果
市からの委託により、複合的な課題を抱える相談者等が「制度の狭間」に陥らないよう、相談者の必要に応じた包括的な自立相談支援のため、多職種（市関係課職員・就労支援員・福祉施設相談員・就労準備事業支援員等）と連携し、自立相談支援調整会議を開催しました。会議の中で、支援方針等を共有・決定し、支援につなげました。		自立相談支援調整会議22回開催。 プラン作成した132件のうち、延べ100件の就労自立、継続支援を行い、制度の狭間に陥らないよう支援しました。
自己評価	今後の方針	
A	引き続き自立相談支援事業を実施する中で、自立相談支援調整会議を開催し、多職種（ハローワーク、障害者就労支援センター、病院等）との連携を強化します。また、多職種連携セミナー開催に向けてのニーズ等を把握し、実施に向け検討していきます。	

A達成 B未達成 C検討中 D中止

＜備考＞

ふくしの杜ほんじょうプラン2 1 進捗管理シート

担当係

庶務係

基本戦略	計画推進体制の発展・強化				
施策細目	社会福祉協議会の機能強化				
重点施策					
重点事項・ 重点的取組	事業				
	業務・財務分析や事務局の体制強化				
	概要 業務・財務分析を行い、社協事業の点検・整理・見直しに取り組み、事務局職員体制の整備を行います。また、社協の発展強化計画を策定して、業務の推進を計画化します。				
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年次計画 (予定)	業務・財務分析・発展強化計画の策定			職員体制の整備	
指標目標 ※年度初めに設定	事業別実施計画表の作成	組織体制の検討・事業の効果測定等の事業評価体制の構築	組織体制の検討・事業の効果測定等の事業評価の実施	組織体制の検討・事業の効果測定等の事業評価の実施	

<令和3年度実施結果>

具体的な取組内容		成果
効率的かつ効果的な事業展開を図るために、事業別実施計画表を作成し、課題抽出及び改善策等の提案・協議を行いました。		各事業の進捗状況を定期的に把握することにより、職員間で情報共有を図ることができました。また、職員間で協議を行い、課題解決に取り組みました。
自己評価	今後の方針	
A	社協の組織体制、事業の内容、職員等の事業推進体制、財務状況を十分把握し検討した上で計画の策定を行い、事業展開の総合的な調整や、将来的なビジョンの検討、計画的な事業執行を行うための組織管理体制の構築を引き続き検討します。さらに、多様化する社協業務に必要な人材の確保や専門家とのネットワークづくりに努めます。	

A 達成 B 未達成 C 検討中 D 中止

《備考》

ふくしの杜ほんじょうプラン2 1 進捗管理シート

担当係

庶務係

基本戦略	計画推進体制の発展・強化				
施策細目	社会福祉協議会の機能強化				
重点施策					
重点事項・ 重点的取組	事業				
	相談支援機能の強化と相談体制の整備(1)【再掲】				
	概要				
	市民の日常生活上の課題への相談対応にあたり、相談支援機能を強化します。具体的には、定期的に担当職員によるケース検討や職員研修を開催し、職員個々の相談対応力の向上に努めます。				
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年次計画 (予定)	生活相談支援機能の強化(定例検討会・職員研修の実施)				
指標目標 ※年度初めに設定	組織内研修の実施	組織内研修の実施・OJTの導入	組織内研修の実施・階層別研修の実施	組織内研修の実施・階層別研修の実施	

<令和3年度実施結果>

具体的な取組内容		成果
新型コロナウイルス感染症の影響により、オンラインで実施する研修が増えたことにより受講環境を強化しました。また、2年度に引き続き、職員の資質の向上や組織力の向上を目指し、ナラティブアプローチ研修、個人情報保護研修、コンプライアンス研修等を実施し、組織内研修の充実を図りました。		個人情報保護研修やコンプライアンス研修を毎年実施するなど、事故が起きないように取り組んでいます。ナラティブアプローチ研修では、多様化する対人援助や相談援助事例に対応するために全職員で受講し、相談援助技術の向上を図りました。
自己評価	今後の方針	
A	さまざまな福祉ニーズに対応できる人材の育成と専門性の向上のため、必要な研修体系を整理して職員研修の充実を図り、市民の信頼と期待に応えられる職員となることを目指します。また、複雑かつ多様な生活・福祉課題にも的確に対応できるよう、知識や能力、技術などを身に付け、職員の育成に努めます。	

A達成 B未達成 C検討中 D中止

《備考》

ふくしの杜ほんじょうプラン21 進捗管理シート

担当係

地域福祉係

基本戦略	計画推進体制の発展・強化				
施策細目	社会福祉協議会の機能強化				
重点施策					
重点事項・ 重点的取組	事業				
	相談支援機能の強化と相談体制の整備(2)【再掲】				
	概要 日常生活圏域(中学校区域)ごとにCSWを配置して、市民の生活課題をアウトリーチするための相談体制を整えます。また、CSWは個別支援とともに地域支援を行い、主に小学校圏域ごとに展開を想定している小地域福祉活動をサポートし、地域資源開発や住民相互の相談機能の構築に取り組みます。				
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年次計画 (予定)	調査研究・暫定的なCSWの配置			CSWの配置	
指標目標 ※年度初めに設定	担当業務を通じて、コミュニティ・ソーシャル・ワークを実践する	担当業務を通じて、コミュニティ・ソーシャル・ワークを実践する	担当業務を通じて、コミュニティ・ソーシャル・ワークを実践する	CSW配置の検討	

<令和3年度実施結果>

具体的な取組内容			成果
CSWの配置には至っておりませんが、民生委員・児童委員の見守り活動支援やサロン活動支援、その他の地域活動支援等を通じて、コミュニティ・ソーシャル・ワークの実践に取り組みました。また、圏域ごとにサロン担当者を配置して、運営等に関する相談に対応しました。コロナ禍により、県社協等が主催する研修会の開催(参加)はありませんでした。			生活支援コーディネーター等が立ち上げ支援を行い、市内2か所目の地域版住民参加型在宅福祉サービスが始まりました。コロナ禍におけるサロン活動再開に向けて、運営者研修会や相談支援を行いました。
自己評価	今後の方針		
B	新型コロナウイルス感染症の影響により、地域活動等は停滞気味となっていますが、ウィズコロナを意識しながら、無理なく活動を継続・再開していけるように地域活動等の支援を行います。引き続きコミュニティ・ソーシャル・ワークにより個別支援と地域支援活動に取り組みながら、コミュニティ・ソーシャル・ワーカー配置を目指して各職員がスキル向上に努めます。		

A達成 B未達成 C検討中 D中止

《備考》

ふくしの杜ほんじょうプラン21 進捗管理シート

担当係

庶務係

基本戦略	計画推進体制の発展・強化				
施策細目	社会福祉協議会の機能強化				
重点施策					
重点事項・ 重点的取組	事業				
	社会福祉協議会の認知度の向上				
	概要 あらゆる媒体を使って、社協の周知に努めます。また、住民向けの講演会や啓発活動に取り組むほか、地域のイベント等に積極的に参加して、社協の認知度向上に努めます。				
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年次計画 (予定)	社協認知度向上				
指標目標 ※年度初めに設定	ホームページなどの閲覧数の増加 (ホームページ閲覧数年間40,000件)	ホームページなどの閲覧数の増加。 Twitterの開設 (ホームページ閲覧数年間50,000件)	ホームページやSNSへの閲覧数及び閲覧人数の増加(ホームページ閲覧数年間60,000件)	ホームページやSNSへの閲覧数及び閲覧人数の増加(ホームページ閲覧数年間60,000件)	

<令和3年度実施結果>

具体的な取組内容		成果
社協だよりなど、読みたくなる魅力的な広報紙の充実に努めました。また、SNSやケーブルテレビなど、様々な媒体を活用し、タイムリーな情報発信の充実に取り組み、社協へ触れる機会を増やし、本庄市社協への関心・認知度を高めるよう努めました。		ホームページの更新や、SNS等でタイムリーに情報を発信するなど、多様な媒体の活用と内容の充実に努めました。(ホームページ閲覧数59,052件/年)
自己評価	今後の方針	
B	社協の活動を「見える化・見せる化」をすることによって、より多くの住民に理解してもらい、あらゆる世代にもっと社協を身近に感じ、興味を持ってもらえるような活動の充実に図ります。LINEの開設など、広報活動を強化し、更なる情報発信の充実に努めます。また、閲覧数だけでなく、閲覧人数についても拡大を目指し、ボランティア等社協業務の支援者拡大に努めます。	

A達成 B未達成 C検討中 D中止

《備考》

ふくしの杜ほんじょうプラン21 進捗管理シート

担当係

社会福祉係

基本戦略	計画推進体制の発展・強化				
施策細目	社会福祉協議会の機能強化				
重点施策					
重点事項・ 重点的取組	事業				
	社協会員の増強				
	概要				
	社協の認知度向上に取り組むとともに、地域のイベントや様々な機会を活用し、社協の「会員制度」周知とともに会員加入を呼びかけ、会員の増強に取り組めます。事業の周知とともに、安定的な会費（財源）の確保を目指します。				
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年次計画 （予定）	社協会員の増強				
指標目標 ※年度初めに設定	会員の増強 法人会員件数 290件	会員の増強 法人会員件数 300件	会員の増強 法人会員件数 300件	会員の増強 法人会員件数 300件	

<令和3年度実施結果>

具体的な取組内容		成果
ホームページのほか、社協だよりやチラシ等を作成して、社協会員募集に関する周知を図りました。また、新型コロナウイルス感染症の影響により経済状況は厳しい中でしたが、自治会連合会、民生委員・児童委員協議会、団体、法人等へ協力依頼を行いました。法人会員件数は目標に届きませんでしたが、普通会员、特別会員を含めた全体の社協会員数は、昨年度を上回る実績を得ることができました。		法人会員件数251件 参考：普通会员件数5,080件 特別会員件数1,192件
自己評価	今後の方針	
B	新型コロナウイルス感染症の影響により経済状況は厳しいところですが、引き続き、会員増強のため、社協だより、ホームページ、SNSでの周知や事業等を通して関係者及び関係機関への周知を強化し、社協の認知度向上に努めます。特に法人会員の増強に努め、安定的な財源の確保を図ります。	

A達成 B未達成 C検討中 D中止

《備考》

ふくしの杜ほんじょうプラン21 進捗管理シート

担当係

社会福祉係

基本戦略	計画推進体制の発展・強化				
施策細目	地域福祉財源の確保				
重点施策					
重点事項・ 重点的取組	事業				
	会費、寄附金の確保				
	概要				
	社協の会費や寄附金等への協力を個人、団体、企業等に積極的に働きかけ、理解と協力を得ながら持続的な地域福祉財源の確保に努めます。				
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年次計画 (予定)	寄附、会費への協力による地域福祉財源の確保				
指標目標 ※年度初めに設定	社協会費協力金額 5,570,000円 寄附協力金額 2,200,000円	社協会費協力金額 5,600,000円 寄附協力金額 2,300,000円	社協会費協力金額 5,630,000円 寄附協力金額 2,610,000円	社協会費協力金額 5,600,000円 寄附協力金額 2,610,000円	

<令和3年度実施結果>

具体的な取組内容		成果
新型コロナウイルス感染症の影響により経済状況は厳しい中でしたが、個人、団体、企業等に積極的に働きかけ、寄附金及び社協会費への協力へつながるように努めました。		社協会費協力金額: 5,623,060円 寄附金協力金額: 3,903,145円 ※地域福祉の寄附金 1,735,143円 新型コロナウイルス対策応援寄附金 2,777,942円
自己評価	今後の方針	
B	市民や団体、法人等のみなさまに、継続的に寄附金や社協会費への協力を呼びかけ、寄附文化の醸成を図ります。社協だけでなくホームページ、SNS、地域イベント等様々な機会を活用して周知を行い、財源確保に努めます。	

A達成 B未達成 C検討中 D中止

《備考》

ふくしの杜ほんじょうプラン2 1 進捗管理シート

担当係

庶務係

基本戦略	計画推進体制の発展・強化				
施策細目	地域福祉財源の確保				
重点施策					
重点事項・ 重点的取組	事業				
	事業の透明化				
	概要				
	社協の事業の透明性を高めて、理解と信用を得ることで社協会費の収入増を目指します。				
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年次計画 (予定)	事業内容の公開				
指標目標 ※年度初めに設定	社協会費の増加 (5,570,000円)	社協会費の増加 (5,600,000円)	社協会費の増加 (5,600,000円)	社協会費の増加 (5,600,000円)	

＜令和3年度実施結果＞

具体的な取組内容		成 果
各種事業を確実、効率的かつ適正に行うため、福祉サービスの質の向上及び情報公開等による事業経営の透明性の確保に努めるとともに、円滑かつ適正な法人運営を行い、会員募集を積極的に実施しました。		社会福祉法人の電子開示システムにより財務諸表等を期日までに申請・公表を行うとともに、ホームページでの公表も積極的に行い、適正な法人運営を図ったことで、会員増強につながりました。 (令和3年度社協会費5,623,060円)
自己評価	今後の方針	
A	社協経営組織のガバナンスの強化、社協事業運営の透明性の向上及び財務関係の適正かつ公正な支出管理に引き続き努めます。また、運営状況及び財務状況に係る情報をホームページ等での公開を積極的に図ります。さらに、事業内容の公平性及び透明性の確保に努め、より効率的かつ適正な事業実施を図ります。	

A 達成 B 未達成 C 検討中 D 中止

＜備考＞

ふくしの杜ほんじょうプラン21 進捗管理シート

担当係

庶務係

基本戦略	計画推進体制の発展・強化				
施策細目	地域福祉財源の確保				
重点施策					
重点事項・ 重点的取組	事業				
	寄附意識の醸成				
	概要				
	社協だよりやホームページ等を通じて、寄附意識の向上や支え合い意識の増進に努めます。				
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年次計画 (予定)	寄附に関する広報活動				
指標目標 ※年度初めに設定	寄附の機会及び 情報の提供 (寄附協力額 2,200,000円)	寄附の機会及び 情報の提供 (寄附協力額 2,300,000円)	寄附の機会及び 情報の提供 (寄附協力額 2,300,000円)	寄附の機会及び 情報の提供 (寄附協力額 2,300,000円)	

<令和3年度実施結果>

具体的な取組内容	成果
寄附者の意向を確認したうえで社協だより等で紹介するとともに、多額寄附者への感謝状贈呈のほか、SNSでの情報発信など寄附意識の醸成に努めました。また、寄附に係る税控除の案内など、広く寄附の有効性について市民に周知を図りました。さらに、令和2年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響によりお困りの方々を支援するため「新型コロナウイルス対策応援金」を募集し、多くのご協力を得ることが出来ました。	社協だよりをはじめとした多様な媒体を活用して、積極的に協力を呼びかけたことで、寄附金への多くのご協力を得ることができました。 (令和3年度 一般寄附1,735,143円、 応援金2,777,942円)
自己評価	今後の方針
A	地域福祉活動の原資となる寄附文化を醸成する上で、地域ニーズを勘案し、より地域に根ざした事業や活動支援を行い、地域住民に寄附金の活用が目に見えて、寄附者が実感できるような取組となるように積極的に努めます。また、その取組を周知し「寄附の見える化」ができるように、LINEの開設を実施するなど、情報発信の強化を行います。多様な媒体を活用し、広く寄附の有効性について周知を図ります。

A達成 B未達成 C検討中 D中止

《備考》

ふくしの杜ほんじょうプラン2 1 進捗管理シート

担当係

庶務係

基本戦略	計画推進体制の発展・強化				
施策細目	地域福祉財源の確保				
重点施策					
重点事項・ 重点的取組	事業				
	基金の適正活用				
	概要				
	基金を適正に活用し、ボランティア支援や社会福祉事業を推進します。				
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年次計画 (予定)	基金の活用				
指標目標 ※年度初めに設定	活用方法の検討	活用方法の検討 及び実施	活用方法の検討 及び実施	活用方法の検討 及び実施	

＜令和3年度実施結果＞

具体的な取組内容		成果
基金及び積立金規程に基づき、基金や積立金の保有目的及び保有金額の確認を行いました。また、事業計画に沿った基金の活用の検討を行いました。		ボランティア活動に対して、毎年有岡基金の活用を図っておりますが、新たに住民参加型在宅福祉サービス事業に対する運営費に対して高齢者福祉事業活動基金の活用を図る計画を策定し、令和4年度予算に反映しました。
自己評価	今後の方針	
A	基金や積立金の保有目的及び保有金額を明確にするとともに、地域福祉に関する取組の充実に向けて活用を図ります。また、活動内容や実績について適切な情報発信を行い、その透明性を確保します。	

A 達成 B 未達成 C 検討中 D 中止

＜備考＞

ふくしの杜ほんじょうプラン2 1 進捗管理シート

担当係

社会福祉系

基本戦略	計画推進体制の発展・強化				
施策細目	地域福祉財源の確保				
重点施策					
重点事項・ 重点的取組	事業				
	共同募金運動の推進				
	概要				
	埼玉県共同募金会本庄市支会事務局として、自治会連合会や民生委員・児童委員協議会、地域の各種団体、企業等の理解と協力を得ながら「赤い羽根共同募金運動」「歳末たすけあい運動」の推進に取り組みます。これら募金活動を通じて、住民の寄附意識の普及と寄附文化の醸成に努めます。				
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年次計画 (予定)	共同募金運動の推進				
指標目標 ※年度初めに設定	目標額の達成 (7,640,000円)	目標額の達成 (7,640,000円)	目標額の達成 (7,640,000円)	目標額の達成 (7,640,000円)	

<令和3年度実施結果>

具体的な取組内容		成果
<p>社協だよりで赤い羽根共同募金活動の周知を図り、自治会連合会、民生委員・児童委員協議会、法人、福祉施設等へ募金の協力を依頼しました。また、SNSや社協だより等で街頭募金の実施を周知しました。街頭募金は埼玉県弘済会児玉郡支部、本庄市児玉町更生保護女性会、本庄市立児玉中学校生徒会及び福祉委員の協力を得て、本庄駅、市内スーパーマーケットで合計3回にわたり募金活動を行いました。その他、赤い羽根自動販売機の周知を図りました。</p>		<p>目標額: 7,640,000円に対して 実績額: 7,865,284円 (102.9%) 赤い羽根自動販売機設置数9台</p>
自己評価	今後の方針	
A	<p>経済状況は厳しいところですが、共同募金目標額の約8割を占める戸別募金への協力について、共同募金の使い道等についての周知を行い、募金活動への理解を深めていただくように働きかけます。同時に、法人募金・職域募金の強化を目指し、新規協力法人の開拓を目指します。また、赤い羽根自動販売機の周知を図り、設置数増を目指します。</p>	

A 達成 B 未達成 C 検討中 D 中止

《備考》